

平成28年度 地域内フィーダー系統確保維持事業一覧

都県	協議会名等	事業者名	乗合バス型 系統数	デマンド型 系統数	車両減価償却 費等車両数	都県	協議会名等	事業者名	乗合バス型 系統数	デマンド型 系統数	車両減価償却 費等車両数		
茨城	土浦市地域公共交通活性化協議会	関東鉄道(株)	2			栃木	栃木市地域公共交通会議	安全タクシー(有)		2			
	日立市公共交通会議	NPO法人助け合いなかさと		1			真岡市	大越観光バス(株)		2			
		日立電鉄交通サービス(株)		3				芳南交通(株)		1			
	古河市公共交通活性化会議	総和中央交通(株)			1			(有)二宮タクシー			1		
		三和交通(有)			1			潮田タクシー(株)			1		
		諸川タクシー(有)			1			茂木町地域公共交通会議	(株)柏タクシー			4	
	龍ヶ崎市地域公共交通協議会	(有)佐貫タクシー			1			下野市地域公共交通会議	関東交通(株)			3	
	常総市公共交通活性化協議会	関東県南タクシー(株)			1			さくら市地域公共交通会議	さくらタクシー(有)			1	
		(有)絹西タクシー			1			(有)誠タクシー			1		
		野村タクシー(有)			1			小山市地域公共交通会議	大山タクシー(有)		3	3	
		松並タクシー(有)			1				(株)小山中央観光バス		3		
		(有)三妻タクシー			1			鹿沼市地域公共交通活性化協議会	鹿沼合同タクシー(株)			6	
		水海道ハイヤー(有)			1			平和タクシー(有)			1		
		石塚タクシー(有)			1			野木町公共交通活性化会議	小山合同タクシー(株)			1	
	かすみがうら市地域公共交通会議	関東グリーンバス(株)	1				(有)野木タクシー			1			
	阿見町地域公共交通活性化協議会	(有)新町タクシー			1		益子町地域公共交通会議	益子タクシー(有)			1		
	日本貿易運輸(株)			1	新光タクシー(有)					1			
	牛久市地域公共交通会議	関東鉄道(株)	5		3			七井タクシー			1		
	つくばみらい市地域公共交通会議	守谷タクシー(有)			1			宇都宮市地域公共交通会議	泉タクシー(株)			4	
(有)常陽観光タクシー				1		アサヒタクシー(株)			2				
五霞町地域公共交通会議	朝日自動車(株)	3				(有)雀タクシー			1				
東海村地域公共交通会議	茨城交通(株)	1				(有)大金タクシー			1				
城里町地域公共交通会議	茨城交通(株)	3			那須烏山市地域公共交通会議	(株)烏山観光タクシー			1				
鉾田市地域公共交通会議	茨城交通(株)	2			烏山合同タクシー(株)			1					
栃木	佐野市地域公共交通協議会	佐野市	7		2	市貝町地域公共交通会議	(株)柏タクシー			1			
	足利市地域公共交通活性化協議会	足利タクシー(株)	1			壬生町地域公共交通会議	野口タクシー(有)			1			
	日光市地域公共交通会議	日光線通運(株)			2			みどり交通(有)			1		
		栃木交通(有)			1			(株)壬生観光自動車			1		
	栃木市地域公共交通会議	千代田タクシー(有)			2		壬生タクシー(有)			1			
		栃木合同タクシー(株)			2		上三川町地域公共交通会議	関東交通(株)			1		
		栃南タクシー(有)			1		大田原市地域公共交通会議	大田原市		1			
		富士タクシー(有)			2		山和タクシー(有)			1			
		(有)大平タクシー			2		那須町地域公共交通活性化協議会	那須合同自動車(株)			3		
		(有)都賀タクシー			1		桐生市地域公共交通会議	(株)沼田屋タクシー			1		
		(株)新交通			1		渋川市地域公共交通会議	関越交通(株)		1			
		藤岡タクシー(株)			2		沼田市	関越交通(株)		2			
	岩舟タクシー(株)			2		甘楽町地域公共交通会議	(有)昭和タクシー			1	1		

平成28年度 地域内フィーダー系統確保維持事業一覧

都県	協議会名等	事業者名	乗合バス型 系統数	デマンド型 系統数	車両減価償却 費等車両数	都県	協議会名等	事業者名	乗合バス型 系統数	デマンド型 系統数	車両減価償却 費等車両数	
埼玉	熊谷市	国際十王交通(株)		1	1	千葉	長南町地域公共交通活性化協議会	(有)長南タクシー		1		
	鳩山町地域公共交通会議	(株)越生タクシー		1				ゆたか自動車(株)		1		
		川越観光自動車(株)	1				茂原市	都自動車(株)		1		
	ときがわ町地域公共交通活性化協議会	イーグルバス(株)		2				小湊鐵道(株)	2		1	
	加須市地域公共交通会議	朝日自動車(株)	1				勝浦市地域公共交通活性化協議会	小湊鐵道(株)	1			
		加須タクシー(株)		2			鴨川市地域公共交通活性化協議会	鴨川日東バス(株)	6			
		騎西タクシー(有)		1			御宿町地域公共交通会議	小湊鐵道(株)		1		
	寄居町地域公共交通活性化協議会	(株)桜交通		1			千葉県横芝光町	(有)横芝タクシー		1		
		大信観光花園(有)		1				房総自動車(有)		1		
		(有)本間タクシー		1			両総観光(株)		1			
	毛呂山町地域公共交通活性化協議会	(株)越生タクシー	1				君津市地域公共交通会議	大新東(株)		2		
	本庄市交通政策協議会	本庄観光(株)	1				東京	大島町交通対策協議会	大島旅客自動車(株)	2		1
		朝日自動車(株)		4				檜原村地域公共交通活性化協議会	大谷商事(有)	1		
	深谷市地域公共交通会議	(株)協同バス		6				(有)横川交通	1			
花園観光バス(株)			2		神奈川	秦野市地域公共交通会議	(株)愛鶴	4		1		
深谷タクシー(有)			3			中井町地域公共交通会議	(株)湘南神奈交バス		1			
白岡市地域公共交通確保維持改善協議会	昭和タクシー(有)		1			二宮町地域公共交通活性化協議会	二宮神奈中ハイヤー(株)		2			
小鹿野町地域公共交通会議	秩父丸通タクシー(株)		1			相模中央交通(株)		2				
上尾市地域公共交通活性化協議会	東武バスウエスト(株)	9			相模原市地域公共交通会議	山口自動車(株)		1				
	(株)協同バス		4		山梨	身延町地域公共交通活性化協議会	山交タウンコーチ(株)		3			
	丸健自動車(株)		1			中央市地域公共交通活性化協議会	(株)身延タクシー		1			
(株)東埼玉観光バス		1				(有)中富タクシー		1				
幸手市地域公共交通会議	千葉交通(株)	12				山梨第一交通(株)		1				
旭市地域公共交通会議	ちばレインボーバス(株)	1				石和タクシー(株)		1				
印西市地域公共交通会議	小湊鐵道(株)	3				富士川町地域公共交通活性化協議会	(有)青柳タクシー	1	1			
いすみ市地域公共交通活性化協議会	千葉交通(株)	2					(有)豊栄タクシー	1	1			
香取市地域公共交通協議会	(株)千葉交タクシー		1				(有)鯉沢タクシー		1			
	ちばフラワーバス(株)	1				甲州市地域公共交通会議	甲州タクシー(株)		1			
	房総自動車(有)		3				塩山タクシー(株)		1			
	両総観光(株)		2			都留市地域公共交通活性化協議会	富士急山梨バス(株)	1				
(有)松尾タクシー		2		富士急山梨ハイヤー(株)				2				
山武市地域公共交通活性化協議会	小湊鐵道(株)	2				(有)島田交通		1				
大網白里市地域公共交通活性化協議会	東金タクシー(有)		1			上野原市地域公共交通活性化協議会	上野原タクシー(株)		1			
	南総タクシー(株)		1		(有)四方津交通			1				
	関口タクシー(有)		1		富士急山梨バス(株)			1				
	小川タクシー(有)		1		南アルプス市地域公共交通活性化協議会	(有)駅前タクシー		1				
東金市地域公共交通会議	小湊鐵道(株)	5			山梨交通(株)		7					
	小湊鐵道(株)		2									
市原市	小湊鐵道(株)		2									

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

協議会名: 土浦市地域公共交通活性化協議会

評価対象事業名: 地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)
土浦市地域公共交通活性化協議会	亀城公園循環 霞ヶ浦循環	<ul style="list-style-type: none"> ・平成27年9月に通常運賃を100円から150円に,平成28年3月に障害者運賃を無料から80円に改定し,市内路線バス運賃(初乗り170円)との格差是正を図った。 ・料金の改定に伴い,回数券(3000円券,1500円券,800円券)を新たに作成した。 ・平成28年3月の市民会館循環のルート変更に伴い,時刻表を新たに作成した。 	A 事業が計画に位置づけられたとおり,適切に実施された	B 事業が計画に位置付けられた目標を達成できていない点があった	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者の減少等に対応するため,利用促進調査(~H29.3)を実施している。 ・利用促進調査において,アンケート調査やワークショップを実施し,これらの結果から改善策を検討する。

<p>日立電鉄交通サービス(株)</p>	<p>日立駅中央口～ケースデンキ ～平和台霊園線</p>	<p>・引き続き、地域住民、交通事業者とパートナーシップ協定を締結して乗車促進活動の取り組みをおこなった。 ・乗車促進活動を行う地域の団体に対し、活動助成金を交付し、継続的な支援を実施した。 ・日立駅を中心とする路線マップを作成し、はじめて日立市に訪れた方もバス乗り場がわかりやすいよう、日立駅情報交流プラザや市内施設、店舗等に配布した。</p>	<p>A</p>	<p>・事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された。</p>	<p>B</p>	<p>・平成28年度までに公共交通利用者数105%(対平成22年度比)を目指すという目標に対して、80.1%、103,962人の利用であった。(対前年度98.2%) ・継続した利用促進を実施し、前年度に比べ減少率は改善したものの(H26とH27の比95.5%)、人口減少や高齢化の進展により、路線バス利用者が減少している。 ・市内南北軸路線を確保し、公共交通体系の構築が図られたことにより、幹線に接続できる交通手段の確保ができた。</p>	<p>・利便性の高い市内南北軸路線維持のため、住民主体の利用促進活動を今後も継続する。 ・パートナーシップ事業を継続し、乗車促進活動を行う地域団体に対し、活動助成金の交付やアドバイス等の支援を継続する。 ・沿線の高等学校に対する利用促進活動を実施していく。</p>
<p>日立電鉄交通サービス(株)</p>	<p>(BRT) おさかなセンター～サンピア日立～大甕駅前</p>	<p>・地域住民、沿線企業及び交通事業者等関係団体で組織するひたちBRTサポーターズクラブと連携して、BRTフォトコンテストの実施やサンタバス等の乗車促進活動を実施した。 ・期間限定で乗車運賃の割引を行い、利用促進を図った(割引額については差額を県が充当)。</p>	<p>A</p>	<p>・事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された。</p>	<p>A</p>	<p>・1日当たりの利用者数254人で対前年度比109.1%であった。 ※ 1便当たりの利用者数比較 105.9%(H27:5.6人/便、H28:5.9人/便) ・市内全体の路線バス利用者が減少傾向にある中で、利用促進の効果もあつた。目標に到達することができた。しかし、赤字解消には至っていない。 ・市内南北軸路線を確保し、公共交通体系の構築が図られたことにより、幹線に接続できる交通手段の確保ができた。</p>	<p>・バス専用道の定時制、速達性の利点をPRしながら、地域住民、沿線企業等で組織するひたちBRTサポーターズクラブとの連携による利用促進を継続する。また、バスの起終点となっている「道の駅日立おさかなセンター」の周辺まちづくりと共に更なる利用促進を図る。</p>

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

協議会名: 古河市公共交通活性化会議
 評価対象事業名: 地域内フィーダー系統確保維持国庫補助金

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の 事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点 (特記事項を含む)
・総和中央交通株式会社 ・三和交通有限会社 ・諸川タクシー有限会社	総和地区、三和地区	事業のPR活動として、利用案内の市内公共施設への再配布や、市の広報への掲載を実施し、実施事業の周知を継続して行った。 また、循環バスも含めた市内の公共交通の案内パンフレットを作成し全戸配布を行った。	A 1日当たりの平均利用者数は目標値に僅かに達してはいるが、事業は概ね適切に実施された。	B 1日当たりの平均利用者数120人/日に対して、119.2人/日であった。 医療機関の休診日の多い木曜日の利用者も前年度より増え、目標値を概ね達成することができた。	高齢者の免許返納者などを公共交通利用へ転換するため、事業PRを継続し、市民への事業の周知を図っていく。 また、運行開始時点と現状では市内病院の休診日等状況が変化してきているところもあることから、利用者、運行事業者、及び市内タクシー事業者等の意見を聞きながら、運行日等の見直しについても検討する。

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

協議会名: 龍ヶ崎市地域公共交通協議会

評価対象事業名: 地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の 事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点 (特記事項を含む)
事業者名: (有)佐貫タクシー	運行系統名: 龍ヶ崎市乗合タクシー 龍ヶ崎市内全域	平成28年7月より, 新たな目的地として市民窓口ステーションを追加するとともに8便目として18:30の便を設定し, 利用者の利便性向上を図った。	A 事業が計画に位置付けられたとおり, 適切に実施された。	A 乗合タクシーの運行により公共交通空白地域が解消され, 高齢者や交通弱者の移動手段を確保することができた。	制度の周知及び利用促進を図るとともに, 目的地など利用者ニーズに対応した運行を検討する

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

協議会名:常総市公共交通活性化協議会

評価対象事業名:地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)
関鉄県南タクシー(株)	デマンド交通(常総市内全域)	<p>包括連携協定を結んでいる筑波大学と協働で作成を検討していたデマンド交通のロゴや車両用のマグネット、のぼり旗等については、「平成27年9月関東・東北豪雨」により被害を受けた予約センターの運営再開及び本復旧までの仮設運営を最優先に取り組んでいるため未実施である。しかし、利用促進策としては、デマンド交通の利用方法を平成28年3月に市の広報へ掲載したほか、障がいの種類による不公平感の解消を目的とし、現状では利用料金が無料とならない精神障がい者(1級)の介添え人1人分を無料とするため、利用料金制度の一部見直しを行い、平成28年10月1日からの適用に向け、市の広報お知らせ版、デマンド車両内へ掲載した。費用対効果改善に向けた検討については、引き続き利用料金の適正化に努めていく。データ収集については、予約センターのオペレーターによるお断り件数の把握、予約システムから時間帯別着信数、利用場所ランキング、車両の緯度・経度データ等の取得を継続的に行っている。学識経験者との協力体制については、当市の公共交通活性化協議会の委員長を筑波大学の教授に就任していただいている。</p>	<p>A 事業が計画に位置付けられたとおり、適切に実施された。</p>	<p>B 目標である1日平均利用者数94人に対し、88人(対前年比4%減)の利用があり、目標を下回る結果となった。その理由は、昨年9月10日に発生した「平成27年9月関東・東北豪雨」により、利用目的地として頻度の高かった常総市石下総合福祉センターや市内のショッピングセンターが利用できなくなったこと、また、水害後に市外への転出者が増えたことも影響していると考えられる。</p>	<p>現在の年齢別利用者割合は70歳以上が8割を超えている。当市の高齢化率は昨年よりも上昇し27%を超えており、今後より一層高齢化率が進むことが予想されることから、高齢者の貴重な交通手段としての役割が今まで以上に増してくると思われる。しかしながら、様々な利用形態が可能なことをもっと広く市民のみなさまに知っていただくよう、さらなるPRを行っていく。今後は、当市福祉部局等と連携し、積極的に出張説明会の実施や包括連携協定を結んでいる筑波大学と協働で、デマンド交通に親しみやすくなるようなロゴ等を作成し、マグネットを車両へ取り付け、チケット販売箇所へのぼり旗等を掲揚し、周知を図る。また、公共交通マップ等の作成も検討していく。</p>
(有)絹西タクシー					
野村タクシー(有)					
松並タクシー(有)					
(有)三妻タクシー					
水海道ハイヤー(有)					
石塚タクシー(有)					

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

協議会名:かすみがうら市地域公共交通会議

評価対象事業名:地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の 事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点 (特記事項を含む)
関鉄グリーンバス(株)	系統名:霞ヶ浦広域バス 運行区間:玉造駅～土浦駅	前回は利用者と収支率が目標に届かなかったため、平成28年度の計画も同じ目標値を設定した。また、利用者離れを起こさぬように病院移転と合わせてルートの見直しを行った。	A 計画どおり事業は適切に実施された。 ※運行日数:366日	B ・利用者数 目標8人/便→実績8人/便 ・収支率 目標60%以上→実績59% 収支率について、ルート変更によって総走行キロが増加があったものの、目標値に近い実績となった。	土浦協同病院での乗降が増加していることから、需要に応じた時間帯の増便を検討するなど、利用状況を勘案した改善を図るとともに本路線の維持に努める。

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

協議会名: 阿見町地域公共交通活性化協議会
 評価対象事業名: 地域内フィーダー系統確保維持国庫補助金

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点
事業者名: 日本貿易運輸株 (有)新町タクシー	陸上交通に係る 地域公共交通確保維持事業 (地域内フィーダー系統) 区間:阿見町全域及びJR荒川 沖駅東口付近	<ul style="list-style-type: none"> ・町内の規模の大きい病院や商業施設、公共施設に利用登録申請書と利用ガイドを配布し、利用登録の増進に努めた。 ・過去の運行ログの解析により、効率の良い予約システムにするための検討を進めた。 	A <ul style="list-style-type: none"> ・登録者数、月当たりの平均利用者数も維持できており、公共交通不便地域の移動手段の確保につながっている。 ・運行記録の解析によって、予約システムや運行体制の改善に努め、継続していく。 	A <ul style="list-style-type: none"> ・目標である月当たり平均利用者数880人に対し、905人(対前年比102%)となっている。 ・安全確保のため、余裕を持った運行体制とした。 	<ul style="list-style-type: none"> ・引き続き、乗合率が上昇するように予約システムや運行体制の改善を図る。

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

協議会名:牛久市地域公共交通会議

評価対象事業名:地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)
<p>関東鉄道株式会社</p>	<p>牛久市コミュニティバスかっぱ号の運行 ・朝夕の通勤者を対象とした路線(3路線) さくら台・みどり野ルート 上柏田・むつみルート(朝) 上柏田・むつみルート(夕) ・日中の外出者を対象とした路線(2路線) みどり野ルート 刈谷ルート ・車両減価償却費等国庫補助金を活用した車両導入 3台</p>	<p>利用実績データや利用者の意見等を分析または検討し、利用者の要望等に対応するルート変更やバス停の新設を行い、利用者の利用環境を改善し、利用者増を図った。</p>	<p>A 計画どおり、平成25年4月1日より、全ての系統が運行開始された。</p>	<p>B 平成25年4月より運行が開始され、カバー人口率の目標値は達成できた。 ・平成28年度(H27.10.1～H28.9.30)の系統毎の評価水準は、前年度事業評価時の実績値に対してほとんどの系統で上回ったが、評価水準を上回る系統は無かった。未達成の理由としては、今回の評価対象期間が本格運行開始から3年半経過したが、かっぱ号に対する市民へ認知等が不足していたこと、評価水準が5年後に達成することを目標とした目標値のため、今回はその途中であることなどが未達成の要因と考えられる。 さくら台・みどり野ルート【昨年度実績:平均63人/日】 (評価水準:80人/日 実績:平均70人/日) 上柏田・むつみルート(朝夕合計)【昨年度実績:平均113人/日】 (評価水準:150人/日 実績:平均107人/日) みどり野ルート【昨年度実績:平均67人/日】 (評価水準:120人/日 実績:平均71人/日) 刈谷ルート【昨年度実績:平均38人/日】 (評価水準:60人/日 実績:平均40人/日) 全系統合計【昨年度実績:平均281人/日】 (評価水準:410人/日 実績:平均288人/日)</p>	<p>・昨年度導入したバスロケーションシステムのPR、鉄道との接続改善、路線バス、かっぱ号、鉄道などの路線図・時刻表を網羅した公共交通パンフレットの作成し、これらの資料の配付や利用促進キャンペーンなど、かっぱ号の更なる利用促進策を実施することにより、広く市民に周知して、利用者の増加を図りたい。 ・利用実績データ等を調査・分析などを行い、必要に応じて計画や目標値の変更等を検討したい。</p>

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

協議会名: つくばみらい市地域公共交通会議
 評価対象事業名: 地域内フィーダー系統確保維持事業国庫補助金

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)
守谷タクシー 有限会社 有限会社 常陽観光タクシー さくら住宅 株式会社	つくばみらい市内全域	①福祉関係部門と連携し、窓口来庁者への利用促進。 ②デマンド乗合タクシーの利用促進を図るため、市広報紙への毎月掲載や、市内イベントでの周知活動、市HPIによる公共交通を活用した市外総合病院への乗継案内などを実施。	A 計画どおり事業は実施された。	C 年々利用者は増加しているものの、目標である1日平均利用者数22人に対し、20.7人の利用があり、目標値を下回った。	デマンド乗合タクシーの登録数や認知度もまだまだ低い状況であるため、広報紙や市内イベント等で幅広く周知するとともに、利用需要のある高齢者に対しPR活動を行い、利用促進を図る。 また、地域公共交通のあるべき姿を検討するため、平成29年度から地域公共交通網形成計画の策定を進め、市民ニーズに対応可能な交通体系の構築を図っていく。

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

協議会名: 五霞町地域公共交通会議
 評価対象事業名: 地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)
朝日自動車株式会社	○フィーダー系統 五霞町コミュニティ交通 (路線定期運行)	本格運行に向け、多様なニーズ、現状の把握を含め、ごかりん号の利用者や沿線上の企業等に対しアンケート調査を行った。	A 事業が計画に位置付けられたとおり、適切に実施された。	A 定量的な目標は設定していないが、地域公共交通網形成計画の中で、2年連続で利用者数の増加が見込める場合、本格運行へ移行する基準としている。 3年目の利用者数については2年目より4%増加し、計画の基準に従い、公共交通会議を経て、平成28年10月から本格運行へ移行することとなった。	本格運行移行後、利用状況等を分析・検討するとともに、利用者増加策として、モビリティ・マネジメント等を踏まえた中での利用促進活動の実施。

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

協議会名: 東海村地域公共交通会議
 評価対象事業名: 地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)
茨城交通株式会社	東海駅東口～茨城東病院	住民及び利用者を対象としたアンケート・ヒヤリング調査の結果及び平成27年度に実施した路線バスの実証実験結果等を基に路線を選定	A 事業が計画に位置付けられたとおり適切に実施された	B ある程度の利用者確保には成功しているが、目標としている数値を達成するためには更なる利用促進・周知活動の実施が必要である。	通勤・通学利用の更なる増加を図るため、事業者や学校等を通じた利用促進活動に取り組むとともに、沿線自治会等との連携により高齢者や将来の公共交通利用者となる子どもたちへの普及啓発に努める。

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

協議会名: 城里町地域公共交通会議
 評価対象事業名: 地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)
茨城交通株式会社	①常北中学校～岩下入口 ②③常北中学校～大網～赤沢 観音前	毎月実施している乗降調査を 基に需要動向を把握するととも に以下の施策を実施。 ・運行ダイヤの改正及び停留 所の改廃 ・上記のダイヤの改正に伴う長 距離路線の分割(折り返し運 行)を実施(これにより国補対 象外の系統となる)	A 事業が計画に位置付けられ た通り、適切に実施されて いる。	A 事業目標及び効果は達成 された。	運行ダイヤの変更や停留所の 改廃により、地域の要望に応え 利便性の向上に寄与したが、 路線の創出により町の財政支 出が増えている。今後は事業 者と連携し住民が親しみをもて るような取り組みを実施し利用 者の掘り起こしを行う必要があ る。

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

協議会名: 銚田市地域公共交通会議
 評価対象事業名: 地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の 事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点 (特記事項を含む)
茨城交通株式会社	系統名: 運行区間 銚田: 新銚田駅～大洗駅 縦山: 縦山診療所前～大洗駅	初年度のため、前回事業評価がない。	A 事業が計画に位置付けられた通り、適切に実施された。 運行日数: 289日	B 利用者数 目標: 7,000人(20.4人/日) 実績: 8,821人(30.5人/日) 全体としては、概ね目標を達成できた。	今後は利用状況の把握を継続的に行うとともに、学生や高齢者などに広く周知活動を展開して、更なる利用促進に向けた取り組みを行っていく。 沿線の施設と連携した利用促進策を検討していく。

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

協議会名: 佐野市地域公共交通協議会
 評価対象事業名: 地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)
佐野市	【基幹線】 葛の里壺番館 ～佐野新都市バスターミナル	・医療機関への通院者の利便性向上のため、バス停を新設し、路線を延伸した。 ・利用促進を図るため、沿線のシニアクラブに対し「バスの乗り方教室」及び「お出かけ応援事業」等の取組を行った。	A 事業が計画に位置づけされたとおり、適切に実施された。	A ①平均乗車密度 【目標】1.75⇒【実績】1.94 ②平均乗車人数/便 【目標】7.5人⇒【実績】8.1人 ③収支率 【目標】28.8% ⇒【実績】30.2% 前年に比べ利用者数が増加し、目標を達成した。	・基幹線と各支線及び鉄道との乗り継ぎ利便性を向上させ、相乗効果を図る。 ・沿線のシニアクラブに対し「バスの乗り方教室」及び「お出かけ応援事業」等の利用促進策を実施し、利用者の定着を図る。 ・潜在ニーズ把握や利用者意見集約、路線バス利用状況分析等により運行主体見直し及び路線の再編を実施する。
佐野市	【秋山線】 木浦原～市営バス車庫前	・平日に比べ土日祝日の利用者数が少ない1、2便を運休した。 ・利用促進を図るため、沿線のシニアクラブに対し「バスの乗り方教室」及び「お出かけ応援事業」等の取組を継続して行った。	A 事業が計画に位置づけされたとおり、適切に実施された。	C ①平均乗車密度 【目標】0.85⇒【実績】0.71 ②平均乗車人数/便 【目標】3.2人⇒【実績】2.7人 ③収支率 【目標】17.6% ⇒【実績】14.2% 前年に比べ、利用者の減少や、運行経費増額の要因もあり、期待される目標値には届かなかった。	・沿線のシニアクラブに対し「バスの乗り方教室」及び「お出かけ応援事業」等の利用促進策を実施し、利用者の定着を図る。 ・潜在ニーズ把握や利用者意見集約、路線バス利用状況分析等により運行主体見直し及び路線の再編を実施する。
佐野市	【仙波会沢線】 (仙波) 大釜～市営バス車庫前～佐野市民病院 (会沢) 会沢小室～こばやしファミリークリニック～市営バス車庫前	・医療機関への通院者の利便性向上のため、バス停を新設し、路線を延伸した。 ・利用促進を図るため、沿線の町会に対し住民説明会及びチラシ配布を行った。	A 事業が計画に位置づけされたとおり、適切に実施された。	C ①平均乗車密度 【目標】0.65⇒【実績】0.43 ②平均乗車人数/便 【目標】2.3人⇒【実績】1.9人 ③収支率 【目標】19.8% ⇒【実績】18.5% 利用者数や運行経費はほぼ横ばいで推移したが、ダイヤ見直しによる運行回数増の要因により目標値には届かなかった。	・沿線のシニアクラブに対し「バスの乗り方教室」及び「お出かけ応援事業」等の利用促進策を実施し、利用者の定着を図る。 ・潜在ニーズ把握や利用者意見集約、路線バス利用状況分析等により運行主体見直し及び路線の再編を実施する。

佐野市	【野上線】 蓬山ログビジレッジ～田沼行政センター	・シニアクラブ総会や集会を利用し、市営バスを使ったバス旅を支援する「お出かけ応援事業」を案内し、終点の蓬山ログビジレッジまでのバス旅を提案、乗車を促進した。 ・利用者の少ない最終の11便を廃止した。	A	事業が計画に位置づけされたとおり、適切に実施された。	C	①平均乗車密度 【目標】0.50⇒【実績】0.43 ②平均乗車人数／便 【目標】2.3人⇒【実績】2.2人 ③収支率 【目標】10.0% ⇒【実績】8.7% 運行経費が減額となり、収支率は前年度を上回ったが、利用者数が減少が要因となり、期待される目標値には届かなかった。	・沿線のシニアクラブに対し「バスの乗り方教室」及び「お出かけ応援事業」等の利用促進策を実施し、利用者の定着を図る。 ・潜在ニーズ把握や利用者意見集約、路線バス利用状況分析等により運行主体見直し及び路線の再編を実施する。
佐野市	【飛駒線】 寺沢入口～田沼行政センター	・市内のシニアクラブ集会で、沿線にある根古屋森林公園までのルートや時刻を案内し、利用提案を行った。	A	事業が計画に位置づけされたとおり、適切に実施された。	C	①平均乗車密度 【目標】0.80⇒【実績】0.60 ②平均乗車人数／便 【目標】3.0人⇒【実績】2.6人 ③収支率 【目標】13.2% ⇒【実績】10.1% 運行経費が減額となり、収支率は前年度を上回ったが、利用者数が減少が要因となり、期待される目標値には届かなかった。	・沿線のシニアクラブに対し「バスの乗り方教室」及び「お出かけ応援事業」等の利用促進策を実施し、利用者の定着を図る。 ・潜在ニーズ把握や利用者意見集約、路線バス利用状況分析等により運行主体見直し及び路線の再編を実施する。
佐野市	【名水赤見線】 佐野駅～赤見地区～佐野駅	・沿線にある高校の新生全員に案内チラシを配布し、オリエンテーション時に定期乗車券購入申込を受けつけ、新規利用者を獲得した。 ・高校に協力を依頼し、定期乗車券利用者向けに商業施設までのルートや往復の時刻を記載した利用案内を作成のうえ配布した。	A	事業が計画に位置づけされたとおり、適切に実施された。	A	①平均乗車密度 【目標】1.45⇒【実績】1.53 ②平均乗車人数／便 【目標】6.1人⇒【実績】7.4人 ③収支率 【目標】28.2% ⇒【実績】29.7% 前年に比べ利用者数が増加し、目標を達成した。	・沿線の高校に通学する利用者以外の利用者を増やせるよう、地域住民の利用促進に努める。 ・シニアクラブに対し「バスの乗り方教室」及び「お出かけ応援事業」等を実施し、利用定着を図る。 ・潜在ニーズ把握や利用者意見集約、路線バス利用状況分析等により運行主体見直し及び路線の再編を実施する。
佐野市	【犬伏線】 佐野新都市バスターミナル～佐野駅	・町会単位で説明会を行い、町会に合った利用提案を行った。 ・4系統あった路線を利用者の多いルートを経由する1系統に集約した。 ・商業施設へ往復できるようなダイヤに見直し、バス停を増設し、バス停間の距離を短縮した。 ・利用促進を図るため、沿線のシニアクラブに対し「バスの乗り方教室」及び「お出かけ応援事業」等の取組を継続して行った。	A	事業が計画に位置づけされたとおり、適切に実施された。	A	①平均乗車密度 【目標】0.35⇒【実績】0.42 ②平均乗車人数／便 【目標】1.3人⇒【実績】1.6人 ③収支率 【目標】6.9%⇒【実績】8.2% 前年に比べ利用者数が増加し、目標を達成した。	・沿線のシニアクラブに対し「バスの乗り方教室」及び「お出かけ応援事業」等の利用促進策を実施し、利用者の定着を図る。 ・潜在ニーズ把握や利用者意見集約、路線バス利用状況分析等により運行主体見直し及び路線の再編を実施する。

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

協議会名: 足利市地域公共交通活性化協議会
 評価対象事業名: 地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の 事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点 (特記事項を含む)
足利タクシー株式会社	名草線 入名草～足利赤十字病院	目標に達していない便は、原因を分析した上で、目標を達成するための取り組みを実施することを期待するとの結果から、高校の新入学生にチラシを配付して、通学利用の促進を図るなどの取り組みを行った。	A 事業は適切に実施された	C 1便あたりの平均利用者数 目標 5.0人/便以上 実績 4.6人/便	目標に達することができなかったが、前年度と比べ、改善が見られた。 利便性を高め、利用しやすいバスとなるよう努め、目標に近づきたい。

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

協議会名:日光市地域公共交通会議

評価対象事業名: 地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)
日光線通運(株)	日光市デマンド交通 ・運行日:毎日 ・運行時間帯:7時~19時 ・運行地域:小来川地区 ・車両及び台数:10人乗りワゴン車1台 ・運賃:1回300円	利用者のバス停までの移動負担を解消するため、平成27年10月から、より目的地に近い乗降ポイントを増設するとともに、利用案内チラシを作成配布し、利便性向上と利用促進に努めた。また、高齢者交通安全教室や地域老人会での説明会を引き続き開催し、新規利用者への周知及び既利用者からの意見聴取なども実施した。	A 計画どおりに事業は適正に実施された。	C 目標利用者数1便あたり2人以上に対し、0.70人であり、目標を下回った。	引き続き、高齢者の交通安全教室や地域老人会で説明会を開催し、新規利用者への周知及び既利用者からの意見聴取に努めるとともに、広報紙やホームページ等においても事業のPRを実施し、利用促進を図る。
日光線通運(株)	日光市デマンド交通 ・運行日:毎日 ・運行時間帯:7時~19時 ・運行地域:猪倉地区 ・車両及び台数:10人乗りワゴン車1台 ・運賃:1回300円	利用者のバス停までの移動負担を解消するため、平成27年10月から、より目的地に近い乗降ポイントを増設するとともに、利用案内チラシを作成配布し、利便性向上と利用促進に努めた。また、高齢者交通安全教室や地域老人会での説明会を引き続き開催し、新規利用者への周知及び既利用者からの意見聴取なども実施した。	A 計画どおりに事業は適正に実施された。	C 目標利用者数1便あたり1人以上に対し、0.52人であり、目標を下回った。	引き続き、高齢者の交通安全教室や地域老人会で説明会を開催し、新規利用者への周知及び既利用者からの意見聴取に努めるとともに、広報紙やホームページ等においても事業のPRを実施し、利用促進を図る。
日光線通運(株)	日光市デマンド交通 ・運行日:毎日 ・運行時間帯:7時~19時 ・運行地域:落合地区 ・車両及び台数:10人乗りワゴン車1台 ・運賃:1回300円	利用者のバス停までの移動負担を解消するため、平成27年10月から、より目的地に近い乗降ポイントを増設するとともに、利用案内チラシを作成配布し、利便性向上と利用促進に努めた。また、高齢者交通安全教室や地域老人会での説明会を引き続き開催し、新規利用者への周知及び既利用者からの意見聴取なども実施した。	A 計画どおりに事業は適正に実施された。	C 目標利用者数1便あたり1人以上に対し、0.18人であり、目標を下回った。	引き続き、高齢者の交通安全教室や地域老人会で説明会を開催し、新規利用者への周知及び既利用者からの意見聴取に努めるとともに、広報紙やホームページ等においても事業のPRを実施し、利用促進を図る。

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

協議会名: 栃木市地域公共交通会議

評価対象事業名: 地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)
<ul style="list-style-type: none"> ・栃木交通(有) ・千代田タクシー(有) ・栃木合同タクシー(株) ・栃南タクシー(有) ・富士タクシー(有) ・(有)大平タクシー ・藤岡タクシー(株) ・(有)都賀タクシー ・(株)新交通 ・岩舟タクシー(株) ・安全タクシー(有) 	<p>【デマンド交通】 蔵タク</p> <ul style="list-style-type: none"> ・北部エリア ・南部エリア 	<ul style="list-style-type: none"> ・周知及び利用促進のため、地域説明会や出前講座の開催、広報紙への掲載など積極的に行った。また、民生委員、ふれあい相談員と連携を図った。 ・警察署と連携し、運転免許証を自主的に返納した方に対し、回数券を配付した。 ・本市の主要な病院である「とちぎメディカルセンターしもつが」の開院に伴い、病院への乗継が生じないよう運行エリアの見直しを行うことにより、利便性の向上を図った。 	<p>A 計画通り事業は適切に実施された。</p>	<p>利用登録者数は目標16,800人に対して17,606人、利用者数は目標250人/日に対し、246.6人/日であった。</p> <p>【目標達成状況の理由】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・利用が午前中の便に集中しているため、集中する時間帯は予約を受付できない状況にあること。 ・利用者の固定化による複数予約時の予約忘れ、直前キャンセル、使う見込の低い仮予約と思われる事案が発生していること。 ・車椅子利用者の増加や、平成28年4月1日に障害者差別解消法が施行されたことに伴い、一人当たりの乗降時間が長くなったこと。 	<p>引き続き、各地域説明会や老人クラブ(シニアクラブ)等への出前講座を積極的に開催し、制度の周知を図るとともに、利用者登録及び利用の呼びかけを行う。</p>

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

協議会名: 真岡市地域公共交通活性化協議会
 評価対象事業名: 地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)
事業者名 芳南交通(株) 潮田タクシー(株) (有)二宮タクシー 運行系統名 市内全域	運行地域: 真岡市全域	・デマンドタクシー及びコミュニティバスの運行内容見直しを行うため、宇都宮大学との共同研究により、市内アンケート配布による需要調査を実施した。 ・市の広報に利用方法を掲載したり、出前講座を実施したりするなど、公共交通への理解を深め、利用促進を図った。	A 計画どおり事業は適切に実施された。	B ・1日の平均利用者数は、目標の75人/日に対し、73.7人となり、目標をやや下回った。平成27年度の10月に新規目的地を33カ所追加したことで、利便性は向上したものの、目的地の分散化により、乗合効率がやや低下したと思われる。 ・登録者数は、平成28年9月末で8,478人となり前年度と比較し約3%増加している。	・地域公共交通網形成計画に基づき、運行内容の見直しを随時実施するとともに、相互に連携して運行を継続する。 ・持続的な運行の維持と、さらなる利用促進を図るとともに、市民(利用者)や交通事業者等と連携、協働して事業を実施する。 ・まちづくりや地域活性化の観点から、既存の民間バス路線や真岡鐵道との連携強化を図る。
事業者名 大越観光バス(株) 運行系統名 市内循環線 高勢町経由線	始 点: 真岡駅西口 ↓ ↑ 経由地: 真岡市役所 ↓ ↑ 終 点: 真岡駅西口	・高齢者運転免許証自主返納支援事業として、運転免許証を返納した満65歳以上で市内に居住している方に返納日の翌月から1年間、デマンドタクシー及びコミュニティバスの無料乗車券を交付した。	A 計画どおり事業は適切に実施された。	B ・1日の平均利用者数は、目標の65人/日に対し、55.7人/日であり利用者が増加している。利用者が増加する夏季(7、8月)は日によって目標値を上回る日も多くあることから、今後も移動手段としての定着及び利用促進に努めたい。	・本年度、宇都宮大学と共同研究の上、実施した需要調査結果、交通事業者との調整等を踏まえた上で、デマンドタクシー及びコミュニティバスの運行内容の見直しを実施し、市内公共交通の利便性の向上及び利用促進を図る。

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

協議会名: 茂木町地域公共交通会議
 評価対象事業名: 地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)
<p>(株) 柏タクシー</p>	<p>茂木エリア 逆川エリア 中川エリア 須藤エリア</p>	<p>前回目標80人/日を達成し、今回は5年目目標として89人/日を設定した。</p>	<p>A 計画どおり事業は実施された</p>	<p>B 5年目(295日間)12ヶ月(H27.10~H28.9)の目標利用者数26,185人(87人/日)に対し、22,304人(76人/日)であり目標を達成することができなかった。</p> <p>目標が達成できなかった理由: ともだち作業所(就労支援・生活介護サービス事業所)へ通所する約15名の定期利用者が通所先の専用送迎バスに利用転換したため、この分の年間利用者数が減少となったことが主な要因である。(※定期利用者による利用回数:平成27年度の年間利用回数4,135回に対し、平成28年度は763回であったことから、3,372回分が実際に減少した回数と考えられる。)</p>	<p>・目標は、収支改善に向けて現在実施中の公共交通と街中で買物客の増進を目的とした「めぐるくんdeおでかけ券」の配布を引き続き行うとともに協賛(力)店の増加を図る。</p> <p>・利用者の少ない14時15時便を利用するお客様限定の50円特別割引券の配布を引き続き行い、需要喚起と稼働率及び収支率の改善を図る。</p>

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

協議会名: 下野市地域公共交通会議
 評価対象事業名: 地域内フィーダー系確保維持費国庫補助金

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)
<p>【事業者名】 関東交通株式会社</p> <p>【運行系統名】 下野市全域</p>	<p>【デマンド交通「乗合タクシー」】 事業者名: 関東交通株式会社 運行区域: 下野市全域(石橋・国分寺・南河内の3エリア) 運行日: 月曜日から土曜日 ※祝日及び振替休日、年末年始(12/30～1/30)を除く 運行時間帯: 午前8時00分～午後6時00分 運行本数: 1エリア 10便/1日 運行車両: 10人乗りワゴン車 3台(1エリアごとに1台配置) 運賃: 大人(中学生以上)300円・小学生200円・未就学児無料(ただし、保護者同伴を要する)</p>	<p>平成23年に策定した「下野市地域公共交通総合連携計画」に基づきデマンドバスを運行してきた。平成28年3月末で計画期間が終了となり、平成28年4月からの新たな計画を策定し、デマンドバスを運行している。運行時間(便)の午前7時便を廃止し、代わりに最終便を1時間遅らせ午後5時便を設けることで、利用者のニーズに応じた改善を図り、市民にとって利便性が高く、効率的で持続可能な地域公共交通機関として運営した。</p>	<p>A 事業が計画に位置付けられたとおり、適切に実施された。</p>	<p>B 運行日・運行時間帯を見直し、高齢者外出支援者の対象年齢を80歳から75歳に下げ、また、新たに子育て世帯外出支援事業に取り組み、デマンドバスの利用者の拡充を図り利用促進に努めてきたが、利用者数27,965人目標の81.1%となった。</p>	<p>今後も効率的な運行を継続するとともに、広報等を通じてPRに努め利用促進を図る。</p>

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

協議会名: さくら市地域公共交通会議
 評価対象事業名: 地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)
さくらタクシー(有)	さくら市乗合タクシー 旧喜連川町全域	<ul style="list-style-type: none"> ・広報紙・HP等による広報活動を実施した。 ・より実効性の高い目標値に修正した。 	A 事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された。	【目標】 ・1人1回乗車あたりの公費負担額:1,000円以下 ・収支率:17%以上 ・サービスに対する満足度:50%以上 【結果】 ・公費負担額:1,125円 ・収支率:15.52% ・満足度:54.91% 公費負担額及び収支率が目標を達成できていない。 その理由として、利用者数の増加率の減少が挙げられる。	平成28年4月の公費負担額及び収支率が(994円・17.32%)でともに目標を達成している。 この状態を通年で達成できるよう広報等による利用促進に努める。 また、より利用しやすい乗合タクシーとなるよう、運行形態の見直しもあわせて検討する。
(有)誠タクシー	うじえ乗合タクシー 旧氏家町の一部(19行政区及び氏家市街地)	<ul style="list-style-type: none"> ・広報紙・HP・チラシの各戸配布等による広報活動を実施した。 ・より実効性の高い目標値に修正した。 	A 事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された。	【目標】 ・1人1回乗車あたりの公費負担額:2,200円以下 ・収支率:10%以上 ・サービスに対する満足度:50%以上 【結果】 ・公費負担額:3,538円 ・収支率:5.60% ・満足度:48.15% いずれの項目においても、目標を達成できていない。 その理由として、アンケート結果から、運行エリアが限られていることや待ち時間が長いことなどへの不満が増加していることが読み取れる。	平成28年10月から運行エリアを拡大し、利便性が向上した。 アンケート結果を踏まえ、より利用しやすい乗合タクシーとなるよう、運行形態の見直しを検討する。 あわせて、広報等による利用促進に努める。

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

協議会名: 小山市地域公共交通会議

評価対象事業名: 地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)
大山タクシー有限会社 城東中久喜線	小山駅東口 (イオンモール小山前) 高専入口	効果的な運行を継続するとともに、路線図、HP等を通じてPRに努め、沿線地域の方々の利用促進を図った。	A 事業が計画に位置づけされたとおり、適切に実施された。	A 目標170人/日に対して、219人/日であり、目標を超え、更に増加し続けている。	今後も効果的な運行を継続し、路線図、HP等を通じてPRに努め、沿線地域の浸透及び利用促進を図る。
大山タクシー有限会社 大谷中央線	小山駅東口 (小山整形外科内科) 大谷公民館	ホームページ及び市広報誌を活用したPRなど事業者と自治体との協力により利用促進を図った。	A 事業が計画に位置づけされたとおり、適切に実施された。	A 目標190人/日(土塔平成通り線含む)に対して、206人/日(内172人)であり、目標を達成した。	HP及び市広報誌を活用したPRなど事業者と協力して利用促進を図りながら、利用状況を調査しダイヤ見直しの検討を行う。利用者の増加に伴う土塔平成通り線との単独運行の検討
大山タクシー有限会社 土塔平成通り線	小山駅東口 (小山工業団地) たいらや前	ホームページ及び市広報誌を活用したPRなど事業者と自治体との協力により利用促進を図った。	A 事業が計画に位置づけされたとおり、適切に実施された。	A 目標190人/日(大谷中央線含む)に対して、206人/日(内34人)であり、目標を達成した。	HP及び市広報誌を活用したPRなど事業者と協力して利用促進を図りながら、利用状況を調査しダイヤ見直しの検討を行う。利用者の増加に伴う大谷中央線との単独運行の検討
(株)小山中央観光バス 間々田東西線	間々田駅東口 (光南病院) 間々田駅西口	ホームページ及び市広報誌を活用したPRなど事業者と自治体との協力により利用促進を図った。新市民病院への路線再編を行った。	A 事業が計画に位置づけされたとおり、適切に実施された。	C 目標165人/日に対して、69人/日であり、目標を下回っている。	利用状況の調査、分析によりダイヤ・運行回数並びに系統そのもの見直しを検討しつつ、利用促進を図る。新市民病院再編後の利用者からのご意見を踏まえ路線の見直しを行う。

<p>(株)小山中央観光バス 思川駅線</p>	<p>小山駅西口 (豊田公民館) 思川駅</p>	<p>ホームページ及び市広報誌を活用したPRなど事業者と自治体との協力により利用促進を図った。</p>	<p>A</p> <p>事業が計画に位置づけされたとおり、適切に実施された。</p>	<p>B</p> <p>目標130人/日(道の駅線含む)に対して、81人/日(内44人)であり、目標をやや下回っている。</p>	<p>利用状況の調査、分析によりダイヤ・運行回数並びに系統そのものの見直しを検討しつつ、利用促進を図る。</p>
<p>(株)小山中央観光バス 道の駅線</p>	<p>小山駅西口 (JA穂積支店前) 道の駅</p>	<p>ホームページ及び市広報誌を活用したPRなど事業者と自治体との協力により利用促進を図った。</p>	<p>A</p> <p>事業が計画に位置づけされたとおり、適切に実施された。</p>	<p>B</p> <p>目標130人/日(思川駅線含む)に対して、81人/日(内37人)であり、目標をやや下回っている。</p>	<p>利用状況の調査、分析によりダイヤ・運行回数並びに系統そのものの見直しを検討しつつ、利用促進を図る。</p>
<p>大山タクシー有限会社 区域運行</p>	<p>桑絹地区</p>	<p>利用対象者である高齢者等への説明会を実施し、利用者の意見集約をしつつ、利用促進を図った。また、主要施設の追加を行い利便性の向上を図った</p>	<p>A</p> <p>事業が計画に位置づけされたとおり、適切に実施された。</p>	<p>B</p> <p>利用者目標20人/日に対して、12.3人であり目標を下回っている。桑地区高齢者登録者前年に対し0.1%増の10.0%、絹中久喜地区前年に対し0.8%増の18.9%となっている。年間稼働率は目標67%に対し68.9%で目標を上回っている。1日当たりの便数は目標6便のところ5.51便でほぼ目標を達成している。</p>	<p>高齢者等への説明会を実施するとともに集約した意見を基に運行内容の見直しを行い、利用促進を図る。また、主要施設の追加を行い利便性の向上を図る。</p>
<p>大山タクシー有限会社 区域運行</p>	<p>間々田東部・大谷中南部地区</p>	<p>利用対象者である高齢者等への説明会を実施し、利用者の意見集約をしつつ、利用促進を図った。また、主要施設の追加を行い利便性の向上を図った</p>	<p>A</p> <p>事業が計画に位置づけされたとおり、適切に実施された。</p>	<p>B</p> <p>利用者目標20人/日に対して、8.6人であり、目標を下回っている。間々田区高齢者登録者前年に対し1.9%増の10.1%、大谷地区前年に対し0.8%増の8.6%となっている。年間稼働率は目標27%のところ42.9%で目標を大きく上回っている。1日当たりの便数は目標2便のところ3便で目標を上回っている。</p>	<p>高齢者等への説明会を実施するとともに集約した意見を基に運行内容の見直しを行い、利用促進を図る。また、主要施設の追加を行い利便性の向上を図る。</p>
<p>大山タクシー有限会社 区域運行</p>	<p>寒川・生井地区</p>	<p>利用対象者である高齢者等への説明会を実施し、利用者の意見集約をしつつ、利用促進を図った。</p>	<p>A</p> <p>事業が計画に位置づけされたとおり、適切に実施された。</p>	<p>B</p> <p>利用者目標20人/日に対して、17.2人であり、目標を下回っている。目標は西部地区として豊田・中・穂積、寒川・生井地区全体で設定している。また、登録者前年に対し寒川・生井区は1.8%増の24.8%となっている。年間稼働率は目標39%のところ46.2%で目標を上回っている。1日当たりの便数は目標4便のところ4.15便で目標を上回っている。</p>	<p>高齢者等への説明会を実施するとともに集約した意見を基に運行内容の見直しを行い、利用促進を図る。また、主要施設の追加を行い利便性の向上を図る。</p>

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

協議会名: 鹿沼市地域公共交通活性化協議会
 評価対象事業名: 地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)
鹿沼合同タクシー(株) 粟野地域デマンド 粟野、粕尾、永野、清洲	粟野地域内 区域運行 平成24年4月から、粟野地区、粕尾地区、永野地区、清洲地区の各デマンドを一元化した。	・目標値と現状が乖離していたため見直しを行い、県補助制度における一つの基準となる収支率を指標として目標値を設定した。 ・運転手会議を毎月開催し、情報共有及びニーズ把握を行った他、HPの改善等の課題解決を実施した。 ・高齢者向けの出前講座を実施し、PRを行った。	A 計画どおり事業は適切に実施された。	C 目標 17.6人/日・台 平成26年度 15.8人/日・台 平成27年度 15.1人/日・台 平成28年度 14.0人/日・台 前年実績と比較すると、1.1人/日・台減少している。	・路線バスを含め、粟野地域全体として運行形態の見直しを行っていくとともに、バス利用促進のため、継続してPRに努める。 ・運転手会議を毎月開催し、情報共有及びニーズ把握等も継続して行っていく。
平和タクシー(有) 板荷・菊沢地区デマンド	板荷・菊沢地区内 区域運行 運行開始 平成22年11月	目標値と現状が乖離していたため見直しを行い、県補助制度における一つの基準となる収支率を指標として目標値を設定した。また、運転手会議を毎月開催し、情報共有及びニーズ把握を行った他、HPの改善等の課題解決を実施した。	A 計画どおり事業は適切に実施された。	B 目標 21.6人/日・台 平成26年度 18.0人/日・台 平成27年度 19.2人/日・台 平成28年度 18.4人/日・台 前年実績と比較すると、0.8人/日・台減少している。	・今後も、効率的な運行を継続するとともに、様々な機会を通じてPRに努め、地域住民のバス利用を図る。 ・運転手会議を毎月開催し、情報共有及びニーズ把握等も継続して行っていく。
鹿沼合同タクシー(株) 北押原・南押原・北犬飼地区デマンド	北押原・南押原・北犬飼地区 区域運行 運行開始 平成22年11月	目標値と現状が乖離していたため見直しを行い、県補助制度における一つの基準となる収支率を指標として目標値を設定した。また、運転手会議を毎月開催し、情報共有及びニーズ把握を行った他、HPの改善等の課題解決を実施した。	A 計画どおり事業は適切に実施された。	B 目標 19.5人/日・台 平成26年度 18.9人/日・台 平成27年度 17.6人/日・台 平成28年度 15.9人/日・台 前年実績と比較すると、1.7人/日・台減少している。	・今後も、効率的な運行を継続するとともに、様々な機会を通じてPRに努め、地域住民のバス利用を図る。 ・運転手会議を毎月開催し、情報共有及びニーズ把握等も継続して行っていく。
鹿沼合同タクシー(株) 松原地区等デマンド	松原等地区内 区域運行 運行開始 平成23年11月	目標値と現状が乖離していたため見直しを行い、県補助制度における一つの基準となる収支率を指標として目標値を設定した。また、運転手会議を毎月開催し、情報共有及びニーズ把握を行った他、HPの改善等の課題解決を実施した。	A 計画どおり事業は適切に実施された。	B 目標 17.7人/日・台 平成26年度 14.0人/日・台 平成27年度 13.8人/日・台 平成28年度 14.7人/日・台 前年実績と比較すると、0.9人/日・台増加している。	・今後も、効率的な運行を継続するとともに、様々な機会を通じてPRに努め、地域住民のバス利用を図る。 ・運転手会議を毎月開催し、情報共有及びニーズ把握等も継続して行っていく。

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

協議会名: 野木町公共交通活性化会議
 評価対象事業名: 地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)
・小山合同タクシー(株) ・(有)野木タクシー	町内全域	・前回の事業評価結果を踏まえ、利用者アンケート及び未利用者アンケートを実施した。 ・利用者アンケートの集計結果より利用者が感じたデマンドに対する不満点を改善するため、事業所と打合せを行い意見交換をした。 ・利用者の約89%を占める高齢者を対象に、町主催の敬老会の開催会場において、約2,800部の利用案内のパンフレットを配布し、制度の周知、登録及び利用の促進を図った。	A 事業が計画に位置付けられたとおり、適切に実施された。	A ・目標数値である利用登録者数の2,240人対して、2,256人(平成28年9月末現在)であった。実証(試行)運行の当初年度の平成21年度(実施は11月から)は1,223人、平成22年度、平成23年度、平成24年度、平成25年度は250人前後となっているが、平成26年度は174人、平成27年度は149人が登録し、減少傾向となっている。平成28年度は157人の登録があり、昨年よりわずかに増加している。利用登録者数は目標値の2,240人を超え、順調に伸びてきているが、今後は登録人数の減少を踏まえながら目標値を定めていく。 ・目標数値である1日平均利用者数の36.6人/日に対して、約38.9人/日であった。実証(試行)運行の当初年度の平成21年度(実施は11月から)は23.8人/日、2年目の平成22年度は29.3人/日、3年目の平成23年度は31.8人/日、4年目の平成24年度は34.5人/日、5年目の平成25年度は36.8人の1日平均利用者数であった平成26年度には35.0人/日に減少したものの、平成27年度には37.5人/日に増加し、平成28年度には38.9人/日と目標値の36.6人/日を達成した。今後は、運行期間の8年間の実績を踏まえた目標値に改めていく。 ・利用者の年齢については、65歳以上の利用者が全体の88.8%であった。また、利用者アンケートの回答者のうち、外出の際の移動手段として徒歩、タクシー、デマンド交通のいずれかのみを利用していると回答した方が36.8%で、そのうちの過半数が送迎をたのめる人がいないとの回答を得たことから事業目的である高齢者等の交通弱者対策のための「安全で安心に移動できる「地域の足」の確保」として事業目的を果たしていることが伺える。	今後も、アンケート調査により、利用者のニーズ等を把握し、利用者の利便等を考慮した運行の実施を検討課題としていくとともに、登録及び利用の促進を図るため、引き続き本事業の周知等を行う。 また、定量的な目標・効果については、運行実施から約8年が経過したこともあるので、8年間の実績を踏まえた目標値に改めていく。

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

協議会名: 益子町地域公共交通会議
 評価対象事業名: 地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)
七井タクシー 七井地区	七井～益子地区	町・タクシー事業者・商工会との意見交換会を定期的に行い、デマンドタクシーの利用実績や、利用者の意見等を三者間で共有している。また、今後利用者を増やしていくための取組について、意見交換も行っている。	A 計画通り、事業は適切に実施された。	B 運行系統ごとの計画は立てておらず、全体として目標48人/日に対して、42.6人/日であった(H27.10～H28.9)。H26.4より本格運行を開始し2年目を迎えたので、町民の方々にも広く認知いただけるようになった。徐々に利用者も増加し、H28.4には1日の最大利用者が80人を記録するなど着実に利用者数は伸びている。また、利用者登録数は2,852人(H28.9末)で、平成28年度目標の2,800人を達成している。	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者増加のために、高齢者単独世帯への周知として地域の民生委員に対しての説明と周知依頼、町広報誌によるさらなるPRを続ける。 ・福祉・高齢者支援関係課とも連携を図り、利用者を増やしていくための取組を行う。 ・住民のニーズを図るためにアンケートを実施し、それを基に平成28年度中に地域公共交通網形成計画を策定する。
益子タクシー(有) 益子地区	益子～七井～田野地区		A 計画通り、事業は適切に実施された。	B	
新光タクシー(有) 田野地区	田野～益子地区		A 計画通り、事業は適切に実施された。	B	

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

協議会名: 宇都宮市地域公共交通会議

評価対象事業名: 地域内フィーダー系統確保維持国庫補助金

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)
事業者名: 泉タクシー(株)	区域運行: 国本地区(全域)	<ul style="list-style-type: none"> ・既存公共交通との適切な役割分担を考慮しながら、目的施設を追加するなど地域ニーズを運行計画へ反映し、利便性の向上を図った。 ・PR活動の実施や選挙投票日に合わせて運行を行うなど利用促進を図った。 	A 計画に位置づけられた事業は適切に実施された。	A <ul style="list-style-type: none"> ・目標である1回あたりの平均乗車人数2.0人/回に対し、2.5人であった。 ・医療機関や商業施設など幅広く利用されており、利用者が増加傾向にある。また、路線バス停留所への接続利用も見られ、広域的な移動需要への対応も図っている。 ・買物、通院だけでなく、高齢者の生きがいづくりや健康づくりにも寄与している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・引き続き、既存の公共交通との適切な役割分担のもと、地域ニーズの運行計画への反映や路線バスとの接続強化などに取り組むことで更なる利便性向上を図っていく。
事業者名: 泉タクシー(株)	区域運行: 篠井地区(全域)	<ul style="list-style-type: none"> ・既存公共交通との適切な役割分担を考慮しながら、目的施設を追加するなど地域ニーズを運行計画へ反映し、利便性の向上を図った。 ・PR活動の実施や地域行事、選挙投票日に合わせて運行を行うなど利用促進を図った。 	A 計画に位置づけられた事業は適切に実施された。	B <ul style="list-style-type: none"> ・目標である1回あたりの平均乗車人数2.0人/回に対し、1.7人であった。 ・医療機関や商業施設など幅広く利用されている。また、鉄道駅や路線バス停留所への接続利用も見られ、広域的な移動需要への対応も図っている。 ・買物、通院だけでなく、高齢者の生きがいづくりや健康づくりにも寄与している。 ・時間帯によっては、低密度の輸送が見られる状況であり、地域ニーズを踏まえた運行計画の改善・見直しなどによる利便性向上策について検討する必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・PR活動に積極的に取り組むことで利用促進を図っていく。 ・地域ニーズ調査等に基づく接続施設の充実や路線バスとの接続強化などに取り組むことで、利便性の向上を図っていく。 ・利用実態等を踏まえながら、運行コスト抑制など、運行計画の改善・見直しについて検討していく。

<p>事業者名: 泉タクシー(株)</p>	<p>区域運行: 富屋地区(全域)</p>	<p>・既存公共交通との適切な役割分担を考慮しながら、目的施設を追加するなど地域ニーズを運行計画へ反映し、利便性の向上を図った。 ・PR活動の実施や地域行事、選挙投票日に合わせて運行を行うなど利用促進を図った。</p>	<p>A 計画に位置づけられた事業は適切に実施された。</p>	<p>B ・目標である1回あたりの平均乗車人数2.0人/回に対し、1.7人であった。 ・医療機関や商業施設など幅広く利用されている。また、路線バス停留所への接続利用も見られ、広域的な移動需要への対応も図っている。 ・買い物、通院だけでなく、高齢者の生きがいづくりや健康づくりにも寄与している。 ・時間帯によっては、低密度の輸送が見られる状況であり、地域ニーズを踏まえた運行計画の改善・見直しなどによる利便性向上策について検討する必要がある。</p>	<p>・PR活動に積極的に取り組むことで利用促進を図っていく。 ・地域ニーズ調査等に基づく接続施設の充実や路線バスとの接続強化などに取り組むことで、利便性の向上を図っていく。 ・利用実態等を踏まえながら、運行コスト抑制など、運行計画の改善・見直しについて検討していく。</p>
<p>事業者名: 泉タクシー(株)</p>	<p>区域運行: 上河内地区(全域)</p>	<p>・既存公共交通との適切な役割分担を考慮しながら、目的施設を追加するなど地域ニーズを運行計画へ反映し、利便性の向上を図った。 ・PR活動の実施や選挙投票日に合わせて運行を行うなど利用促進を図った。</p>	<p>A 計画に位置づけられた事業は適切に実施された。</p>	<p>B ・目標である1回あたりの平均乗車人数2.0人/回に対し、1.8人であった。 ・公共施設や医療機関など幅広く利用されている。また、鉄道駅への接続利用も見られ、広域的な移動需要への対応も図っている。 ・買い物、通院だけでなく、高齢者の生きがいづくりや健康づくりにも寄与している。 ・地域ニーズを踏まえた運行計画の改善・見直しやUDタクシーの導入などによる利便性向上策について検討する必要がある。</p>	<p>・PR活動に積極的に取り組むことで利用促進を図っていく。 ・地域ニーズ調査等に基づく接続施設の充実や路線バスとの接続強化などに取り組むことで、利便性の向上を図っていく。 ・UDタクシーの導入などサービス向上策について検討していく。</p>
<p>事業者名: アサヒタクシー(株)</p>	<p>区域運行: 横川地区(全域)</p>	<p>・既存公共交通との適切な役割分担を考慮しながら、目的施設を追加するなど地域ニーズを運行計画へ反映し、利便性の向上を図った。 ・PR活動の実施や選挙投票日に合わせて運行を行うなど利用促進を図った。 ・利用実態を踏まえ、午前中の配車体制を2台にし、追加配車を抑制することで運行経費の削減を図った。</p>	<p>A 計画に位置づけられた事業は適切に実施された。</p>	<p>A ・目標である1回あたりの平均乗車人数2.0人/回に対し、2.1人であった。 ・医療機関や商業施設など幅広く利用されている。また、鉄道駅や路線バス停留所への接続利用も見られ、広域的な移動需要への対応も図っている。 ・買い物、通院だけでなく、高齢者の生きがいづくりや健康づくりにも寄与している。</p>	<p>・引き続き、既存の公共交通との適切な役割分担のもと、地域ニーズの運行計画への反映や路線バスとの接続強化などに取り組むことで更なる利便性向上を図っていく。</p>

<p>事業者名:アサヒタクシー (株)</p>	<p>区域運行:河内地区(全域)</p>	<p>・既存公共交通との適切な役割分担を考慮しながら、目的施設を追加するなど地域ニーズを運行計画へ反映し、利便性の向上を図った。 ・PR活動の実施や選挙投票日に合わせて運行を行うなど利用促進を図った。</p>	<p>A</p>	<p>計画に位置づけられた事業は適切に実施された。</p>	<p>A</p> <p>・目標である1回あたりの平均乗車人数2.0人/回に対し、2.1人であった。 ・医療機関や商業施設など幅広く利用されており、利用者が増加傾向にある。また、鉄道駅や路線バス停留所への接続利用も見られ、広域的な移動需要への対応も図っている。 ・買物、通院だけでなく、高齢者の生きがいがづくりや健康づくり、小学校の校外活動等にも寄与している。</p>	<p>・引き続き、既存の公共交通との適切な役割分担のもと、地域ニーズの運行計画への反映や路線バスとの接続強化などに取り組みむことで更なる利便性向上を図っていく。</p>
<p>事業者名:(有)雀タクシー</p>	<p>区域運行:雀宮地区(一部)</p>	<p>・まちづくり組織のホームページを活用したPR活動や地域行事に合わせた運行により潜在需要の掘り起こしなど利用促進を図った。 ・PR活動の実施や選挙投票日に合わせて運行を行うなど利用促進を図った。</p>	<p>A</p>	<p>計画に位置づけられた事業は適切に実施された。</p>	<p>B</p> <p>・目標である1回あたりの平均乗車人数2.0人/回に対し、1.6人であった。 ・医療機関や商業施設など幅広く利用されており、利用者が増加傾向にある。また、鉄道駅への接続利用も見られ、広域的な移動需要への対応も図っている。 ・買物、通院だけでなく、高齢者の生きがいがづくりや健康づくりにも寄与している。 ・時間帯によっては低密度の輸送が見られる状況であり、地域ニーズを踏まえた運行計画の改善・見直しなどによる利便性向上策について検討する必要がある。</p>	<p>・PR活動に積極的に取り組むことで利用促進を図っていく。 ・地域ニーズ調査等に基づく接続施設の充実や路線バスとの接続強化などに取り組むことで、利便性の向上を図っていく。 ・未導入自治会に対し、導入の働きかけを行い、地区全域への導入を図っていく。 ・利用実態を踏まえた配車体制の効率化による運行コスト抑制など、運行計画の改善・見直しについて検討していく。</p>

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

協議会名: 那須烏山市地域公共交通会議
 評価対象事業名: 地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)
(有)大金タクシー	南那須地区全域及び烏山地区の指定施設(市役所烏山庁舎・山あげ会館・那須南病院・烏山台病院)	平成28年4月より本格運行開始。収支率が前回と比較して17.7%から19.0%に向上した。	A 事業は計画に位置づけられたとおり、適切に実施された。	C 年間利用者数目標13,200人に対して7,731人であった。(達成率59%)	デマンド交通の周知活動を行い、利用者数の増加を図る。
(株)烏山観光タクシー 烏山合同タクシー(株)	烏山地区全域及び南那須地区の指定施設(市役所南那須庁舎・保健福祉センター・南那須図書館)	収支率が前回と比較して、烏山観光タクシーは7.5%から10.2%に向上し、烏山合同タクシーは11.2%から19.4%に向上した。	A 事業は計画に位置づけられたとおり、適切に実施された。	C 年間利用者数目標14,400人に対して11,316人であった。(達成率79%)	運行エリアの見直しを含めた運行上の改善を図る。

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

協議会名:市貝町地域公共交通会議

評価対象事業名:地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の 事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点 (特記事項を含む)
(株)柏タクシー (H27.10.1～H28.9.30)	市貝町全域、芳賀町祖母井地区、 芳賀町上延生ロマンの湯・芳賀中 央クリニック、茂木町茂木さとう耳 鼻咽喉科クリニック、益子町芦沼 青木医院	前回の事業評価においては目標を 達成したと評価したが、利用実態 を常に注視し、継続して利用者の 利便性向上を図った。	A 計画どおり事業は適切に実 施された。	A 利用目標30人/日に対して、36 人/日であった。また、利用登 録者数は、目標1,840人に対 し、2,013人であった。	今後も町HP等を活用してPRIに努 め、利用者等を考慮しながら運行 車両の見直しを行う等さらなる利 便性の向上を目標とする。

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

協議会名: 壬生町地域公共交通会議
 評価対象事業名: 地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)
野口タクシー有限会社 みどり交通有限会社 壬生観光自動車有限会社 壬生タクシー有限会社	事業名: 壬生町デマンドタクシーみぶまる運行事業 運行区域: 壬生町全域 運行日: 月～金(土・日・祝日、年末年始運休) 運行時間: 8～17時 1時間/便 運行本数: 1日9便 運行本数: セダン型タクシー2台 運賃: 中学生以上300円、小学生100円、未就学児無料	<ul style="list-style-type: none"> ・運転免許返納者に無料利用券(40回分)を配布し、自家用自動車から公共交通の利用への転換や高齢者事故の防止に努めた。 ・利用実績データ等の分析を行い、利用状況や収支状況の改善、利用者満足度の向上に努めた。 	A 事業は計画通り適切に実施された。	A 利用者数目標9,250人/年に対し、10,452人/年であった。 1日の平均利用者数38人の目標のところ、43人/日であった。 【目標達成状況に応じた効果】 各種PRにより、周知が図られ、前回評価時と比べ、利用者数は4人/日、0.2人/便増加し、収支率は2.1%向上した。	<ul style="list-style-type: none"> ・デマンドタクシーの利用に関する案内を、町広報等を通し継続的に行う。 ・今後の利用継続・拡大に向け、利用者のニーズ把握とサービスの向上に努める。 ・事業の継続に向け、運行事業者と連携し、効率的な運行を行う。

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

協議会名: 上三川町地域公共交通会議
 評価対象事業名: 地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)
関東交通株式会社	上三川町デマンド交通	<ul style="list-style-type: none"> ・町の広報やホームページ等で事業のPRを行なったことで、利用登録及び利用人数の増加(54.2人/日⇒59.5人)が図られた。 ・町高齢者運転免許証自主返納奨励事業及び健康マイレージの記念品にデマンド交通の利用券を交付した。 ・乗車料金の増額に伴い、デマンド交通乗車回数券を導入し、利便性の向上を図った。 	A 事業が計画的に位置づけられたとおり、適切に実施された。	B 事業が計画に位置付けられた目標を一部達成できていない点があった。 【未達項目】 目標: 一日あたり75人分の移動手段を確保する。 ↓ 実績: 一日あたり59.5人	<ul style="list-style-type: none"> ・運行台数を2台から3台に増車したことで、乗車人数は増えたが、一台あたりの乗車人数は減ってしまったため、新たな顧客確保のための効果的なPR方法を検討し、実施する。 ・料金値上げや広告収入の確保により、収支率が向上した。今後も広告収入の確保に努める。 ・アンケート等を実施し、利用者の意見を聴くことで、より良い事業内容の見直しを行なう。

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

協議会名: 大田原市地域公共交通会議

評価対象事業名: 地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)
大田原市	佐久山・野崎駅線	<p>○利用促進のPR</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市営バス路線・時刻表の配布 → 15,000部作成、配布 ・バスナビの配信 → 継続運営、情報更新 ・市ホームページ・広報誌を通じた情報提供 → 継続掲載、情報更新 	<p>○事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された。</p> <p>A 【事業内容】 佐久山・野崎駅線、黒羽地域区域運行とも平成25年4月1日から実証運行を開始、同年10月1日から本格運行となる。</p>	<p>●利用者一人当たりの運行経費</p> <p>◎大田原市地域公共交通総合連携計画及び平成27年度生活交通ネットワーク計画による目標値</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市営バス11路線230円/人 ・デマンド運行3,848円/人 <p>○平成26年度実績値</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市営バス11路線380円/人 ・デマンド運行3,847円/人(参考)平成27年度実績値 ・市営バス11路線237円/人 ・デマンド運行3,005円/人 <p>↓</p> <p>○平成28年度実績値</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市営バス11路線257円/人 ・デマンド運行2,798円/人 <p>B ◎効果達成状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市営バス11路線関係 平成25年4月に15路線から11路線に大幅な再編をしてから3年半が経過し、利用者への定着が図られつつあり、目標値には届かなかったものの、前年度比では横ばいである。 ・デマンド運行関係 年々の利用者増により平成28年度生活交通ネットワーク計画による目標値及び前年度実績値と比較すると改善はされているが、まだ乗り合わせの効率が悪いと、運行経費の削減までには至っていない。 	<p>引き続き、利用促進のPR(市営バス路線・時刻表の配布やバスナビの配信、市ホームページ・広報誌を通じた情報提供等)を継続的に実施し、利用者数の増加に努めるほか、乗り合わせの率を高める等により運行経費削減を行い、平成27年度実績値である「利用者一人当たり運行経費」のさらなる圧縮を目指す。</p> <p>また、平成29年3月に策定予定の「大田原市地域公共交通網形成計画」にも改善の計画を盛り込み、地域の実情に合った交通形態の検討や既存の運行を改善していく。</p> <p>《目標及び効果の見直し》 平成26年度の事業実績をもとに、当初策定した平成27年度の目標値を修正、平成28年度生活交通確保維持改善計画の策定時に、目標及び効果を見直しを行っている。</p>
山和タクシー有限公司	黒羽地域区域運行				

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

協議会名: 那須町地域公共交通活性化協議会

評価対象事業名: 地域内フィーダ系統確保維持費国庫補助金

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)
那須合同自動車株式会社	北部運行区域(黒田原行き)	平成28年4月1日に実証運行から本格運行に移行した。同時に広谷地行きの利用可能エリアを北部運行区域全域に拡大するとともに、予約時間の締切を前日の16時から17時に延長し、利便性の向上による利用者数の増加を目指した。	A 計画どおり事業は適切に実施された。	B 年間利用者数7,400人の目標値に対して、平成27年度の年間利用者数は6,408人であり、目標を達成することはできなかった。広谷地行きの利用区域拡大等により、昨年比べ利用者数は602人(10%)増加した。ただし目的地側停留所の新設等が実現できず、目標達成に至らなかったものと考えている。	那須町地域公共交通網形成計画の事業として運行ダイヤ、目的地側停留所等の見直しを行い、鉄道・路線バスに結節するフィーダー交通としての機能強化を図る。それらの取り組みにより、利用者数7,400人/年の達成を目指す。
	北部運行区域(広谷地行き)				
	南部運行区域(黒田原行き)				

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

協議会名: 桐生市地域公共交通会議

評価対象事業名: 地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)
株式会社沼田屋タクシー	黒保根町デマンドタクシー(運行区域: 黒保根地区)	<p>・前回の事業評価結果を踏まえ、利用者の移動実態を把握することにより、人々の生活を捉えた交通サービスとなるよう、平成26年度の本格運行以降、年齢階層別、時間帯別、曜日別及び天候別といった利用状況に関するデータの収集・蓄積を継続的に実施している。</p> <p>・本市においては、自家用自動車から公共交通へ転換させる取組みのひとつとして、運転免許証を自主返納した方に対して、黒保根町デマンドタクシーの回数券などを無償で交付しているが、わたらせ渓谷鉄道においても、運転免許証を自主返納して運転経歴証明書を取得した65歳以上の方に対して、普通運賃の50%割引を実施しており、行政だけでなく、鉄道事業者においても、移動の利便性の向上を図るための施策などを継続的に実施している。</p> <p>・新規利用者を増やすため、黒保根町の地区ごとに開催される高齢者向けの集会に参加し、チラシを配るなどの周知を図った。</p> <p>・利用者アンケートを実施し、デマンドタクシーが地域に受け入れられ、利用者に満足してもらえていることがわかった。</p>	A 事業が計画に位置付けられたとおり、適切に実施された。	B <p>事業が計画に位置付けられた目標を達成できていない点があった。</p> <p>【理由】</p> <p>・目標である20人/1日に対し、補助対象期間である平成27年10月から平成28年9月末までの1日当たりの平均利用者数は16.4人であり、計画に掲げた目標には及ばなかった。昨年までは平均利用者数が平成26年度は18.0人、平成27年度は18.3人と若干ではあるが増加していたため、目標を20人/1日としていたが、今年度は定期利用者の減少があり、平均利用者数が減る結果となった。ただし、定期利用者の減少の影響を除けば、昨年度とほぼ同数の利用者数であり、デマンドタクシーの運行以降、当該地域における日常生活に必要な移動手段は安定的に確保することができているものと考えられる。</p> <p>・利用状況を見ると、大半の利用者が黒保根町内にあるわたらせ渓谷鉄道水沼駅に接続されるものであることから、幹線を結ぶ支線としての役割を果たしており、日常生活を支えるために必要な事業である。</p> <p>・利用者の約7割が高齢者や障害者、中学生などの交通弱者であり、通院、買い物、通勤・通学といった、日常生活に欠かせない移動手段となっている。</p>	<p>・今後も、引き続き、運行事業者から報告される日報などから利用状況を分析し、利用実態を把握する。</p> <p>・デマンドタクシーを利用されていない方に対する周知及び実態把握により、新規需要の掘り起こしなどに努めることで、1日当たり20人という目標を達成し、持続可能な運行を実現する。</p> <p>・運転免許証自主返納者に対し、黒保根町デマンドタクシーの回数券を交付する支援事業を継続して行い、市民が安心して生活できる環境整備に努める。</p> <p>・観光客の利用促進のため、わたらせ渓谷鉄道や各観光施設などと連携した取組みを強化する。</p> <p>【今後の目標値について】 様々な利用促進活動を実施しているものの、当初から掲げている1日当たり20人という目標値を達成できないことなどから、1日当たりの利用者数については、引き続き、20人を目標値とする。</p>

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

協議会名: 渋川市地域公共交通会議

評価対象事業名: 地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

①補助対象事業者等	②事業概要(系統名)	③前回(又は類似事業)の事業 評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点 (特記事項を含む)
関越交通株式会社	系統名: 渋川駅～渋川医療センター線 運行時間: 8時5分～18時55分(平日) 10時10分～18時55分(土日祝) 運行本数: 平日10往復便 土日祝6往復便 運賃: 100円	初年度のため該当なし	A 事業は計画どおり、適切に実施された (理由) 渋川医療センターの開院に併せ、当初の計画どおり医療センター利用者の交通手段が確保できた。	A 計画に位置づけられた目標を達成した (理由) 当初計画における年間推計利用者9,400人(1日当たり26人)に対し、4月～11月の利用実績が10,193人(1日当たり41人)であったため。	医療センターではインターンや実習生の受け入れを行っており、通院者に加え学生等が乗る始発便の利用者が多いことから、需要に則した運行ダイヤを検討していく。

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

協議会名: 沼田市地域公共交通会議
 評価対象事業名: 地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)
関越交通株式会社	路線名:沼須線 起点:沼田駅(沼田市保健福祉センター) 終点:利根中央病院 運行日数:206日 運行回数:1,957回 車両減価償却費等国庫補助金を活用し、車両を1台購入	新規事業のため該当なし	A 計画どおり事業は適切に実施された	●運行費補助 1. 1日あたりの乗車人数 ・期間中の運行人数:9,657人 ・期間中の運行日数:206日 (9,657人/206日)=46.8人 2. 収支割合 ・年間収益:1,901,396円(実績額) ・年間運行経費:5,912,170円(補助金交付申請額) (1,901,396円/5,912,170円)×100=32.1% 1日あたりの乗車人数とともに目標より下回ってしまった。 公共交通空白地域に新設した路線であり、目標を立てるに当たり既存の路線実績などが使えなかったため、主な目的地と考えられた病院のアンケート結果をもとに推計した。 B 運行期間中の外来者数は前年同期間に比べ増加しており、それにもかかわらず、目標を達成できなかったのは今までバスを利用して来た人やバス通院を希望していた人が別の通院手段に移ってしまったことが考えられる。目標自体が過大であり、適切ではなかった。また、乗車人数に比例して、収支割合も悪化してしまった。目標は下回ってしまったが、バス停別の乗降調査から病院の最寄りバス停に乗降が集中しており、本事業による、医療ニーズへの充足を図るという効果は認められる。 ●車両減価償却費等補助 車両の1台新規購入により路線を新設することについては目標どおり達成した。	バス停別の乗降調査により、起終点及び病院の最寄りのバス停に乗降が集中しており、通院が主な利用目的であることがわかる。新設したばかりの路線であり、この路線無しでは通院が困難になる利用者もいることから、運行を継続し、路線の定着を図りつつ、実績に基づく利用者数と路線の維持を目標として掲げたい。 また、一層の利用促進を図るため、主な利用目的地である病院に今年度作製予定のチラシ及び時刻表を配付し、通院者に広報することで新たな利用者獲得につなげることとしたい。

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

協議会名:甘楽町地域公共交通会議

評価対象事業名:地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の 事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点 (特記事項を含む)
<p>有限会社 昭和タクシー</p>	<p>町内全域におけるデマンドタクシー運行</p>	<p>利用状況からの客観的データに基づいた地域公共交通会議での検討。介護予防を目的とした地域活動(おたつしゃ会)や運転免許証の自主返納者の利用の推進を図り、高齢者に重点を置き、地域に根付かせるための推進を図った。</p>	<p>A 計画どおり、事業は適切に実施された。</p>	<p>B 目標利用者数 9,600人/年に対して、利用実績が 9,215人と数値目標は若干下回ったが、本事業の実施による交通弱者対策としての効果を十分に果たせた。</p>	<p>高齢者や交通不便地域住民を含めた、交通弱者への更なる利用促進を図りたい。</p>

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

協議会名:熊谷市地域公共交通会議

評価対象事業名:地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)
<p>事業者名: 国際十王交通株式会社</p>	<p>運行系統名: 江南地区路線「ほたる号」 【概要】一般乗合旅客自動車運送事業 【運行日】平成23年10月1日運行開始。毎日運行。ただし、1月1日から1月3日まで運休。 【運行時間帯】6:20～20:09 【運行本数】1日6往復 【運行ルート】江南行政センター～熊谷駅南口～江南行政センター～籠原駅南口～江南行政センター 【運行車両】ノンステップバス1台※国庫補助金「車両原価償却費等」あり 【運賃】(1)1回の運賃 100円(2)1日乗車券 300円(3)回数券(11枚綴り)1,000円(4)運賃の免除について 未就学児、障害者手帳(3種)所持者及びその介助・付添人1人、運転免許を自主返納した70歳以上の市民</p>	<p>目標については、順調に達成しているが、更なる利用促進を行うため、平成27年3月に「熊谷市地域公共交通網形成計画」を策定し、他の交通ネットワークも含めた総合的な事業計画を行う予定である。</p>	<p>A 計画どおりに事業が開始され、順調に運行されていた。</p>	<p>A 【利用者数】 《目標》 平成28年度(H27.10.1～H28.9.30)30,000人 1便(往復)当り13.8人 《実績》 平成28.9月末時点(H27.10.1からH28.9.30まで)2,172便運行) 34,970人 1便当り16.1人 《考察》 平成27年9月末時点の1便当りの乗車人数の実績が15.6人であり、今回の実績が16.1人であることから、僅かだが増加している。また、目標の13.8人も上回る結果となった。今後も引き続き利用者の増加に努めたい。</p>	<p>【既に実施した利用促進策】 ・「江南地区路線」の愛称、イラストを公募し、新規車両の納車に合わせ、ラッピングを施工した。 【今後の改善点】 ・江南地区の地元自治会と一緒に周知を行い、更なる利用者の増加に努めた。 ・H27.1から利用促進策の一環として、回数券を販売した。</p>

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

協議会名: 鳩山町地域公共交通会議
 評価対象事業名: 地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)
川越観光自動車(株)	町内循環(NT石坂)	<ul style="list-style-type: none"> ・ワークショップを開催し、町民の公共交通に対する意識を高めた。 ・利用実態に合わせた目標とし、詳細な分析を行う。 ・路線別に利用者数を需要予測し、目標を明確化。 	A 計画どおり事業は適切に実施された。	C 収支率:13.3% ・目標の15.8%に未達の理由は、埼玉医大便の利用者数が目標に達しなかったためである。埼玉医大では、大規模に患者を近隣の医療機関に転院させていることも影響したと考えられる。 ・町内循環バスは経費の見直しを行ったため、昨年度よりも収支率が改善した。	<ul style="list-style-type: none"> ・鳩山町地域公共交通網形成計画を策定し、今後の公共交通に関する基本方針を示した。現在は、再編実施計画中であり、路線再編を進めるなど、基本方針や網形成計画の具現化を図っている。 ・また、路線再編と同時に推進事業も進めており、町民向けのモビリティ・マネジメントを実施し、公共交通に対する利用喚起や利用促進を行う。 ・高齢化率がまもなく40%を超えるため、高齢者の移動手段の確保を引き続き行う。しかし、免許を保有する高齢者が増えているため、警察署と連携して免許返納と結びつけた取組を行う。
				C 利用者数:113.2人(埼玉医大便24.5人,町内エリア便50.1人,町内循環バス38.6人) ・目標の117人に未達の理由は、デマンドタクシー利用者の減少である。免許を保有する高齢者が増えており、公共交通を利用しない高齢者が増えているのではないかと推測する。	
(株)越生タクシー	デマンドタクシー	<ul style="list-style-type: none"> ・ワークショップを開催し、町民の公共交通に対する意識を高めた。 ・利用実態に合わせた目標とし、詳細な分析を行う。 ・路線別に利用者数を需要予測し、目標を明確化。 	A 計画どおり事業は適切に実施された。	C デマンドタクシー利用登録者数:3,331人 ・目標の3,400人に未達の理由は、登録者は増えたが、亡くなるなどして登録を削除した方が多かったためである。	<ul style="list-style-type: none"> ・引き続き、転入者に対して、デマンドタクシーについて説明することで、更に認知度を高め利用登録者数を増やす。 ・効果については、今後も継続できるように、事業者、自治体、関係機関の連携を適切に行う。
				A ・交通不便地域の解消(町内全域をカバー)した。 ・通学・通院・買物等の主な目的地への移動手段の確保はできている。 ・利用者、住民等の満足度等の維持・向上が図られた。	

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

協議会名: ときがわ町地域公共交通活性化協議会
 評価対象事業名: 地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)
イーグルバス株式会社	デマンドバス:大野・慈光寺ゾーン	デマンドバス利用方法などの周知を十分に行なうことができなかった。	A 事業が計画に位置付けられたとおり、適切に実施された	A 目標稼働率30%以上に対して38%の稼働率があった。2ゾーン合計の月平均利用人数400人に対して330人、大野・慈光寺ゾーンは202人であった。	網形成計画の策定を進める中で、デマンドバスの在り方について、あらためて検討していく。
イーグルバス株式会社	デマンドバス:大附・櫛平ゾーン	デマンドバス利用方法などの周知を十分に行なうことができなかった。	A 事業が計画に位置付けられたとおり、適切に実施された	C 目標稼働率30%以上に対して29%の稼働率があった。2ゾーン合計の月平均利用人数400人に対して330人、大附・櫛平ゾーンは127人であった。	網形成計画の策定を進める中で、デマンドバスの在り方について、あらためて検討していく。

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

協議会名: 加須市地域公共交通会議
 評価対象事業名: 地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)
事業者名:朝日自動車(株)	【シャトルバスの運行】 新古河駅～騎西総合支所	新たに整備された道路を活用し、民間路線バスの路線廃止の影響を受けた住民の移動手段の確保を図るとともに、医療機関への乗入れ箇所を増やし、利便性の向上を図るため、路線の見直しを実施した。	A ●計画に位置付けられた事業は適切に実施された。 ・市の北部から南部までを結ぶシャトルバスの運行により、市内の鉄道間の連携及び市の一体性が図られている。 ・各フィーダー系統については、利用状況や意見等を踏まえて必要に応じ改善を図っている。	C 1日平均利用者は、平成25年度10人、平成26年度13.9人、平成27年度18.7人と着実に増加していたが、平成28年度は、目標である30人に対し18.1人となり、前年度からは減少してしまった。 路線を変更したことにより、ニーズの多かった地域では、新たな利用者を確保したものの、時間帯の変更により利用できなくなってしまった方がいると思われる。	市民ニーズや利用状況を分析のうえ、運行経路やバス停留所の増設などの必要性について検討し、より利用しやすいシャトルバスの運行に努めるものとする。
事業者名:朝日自動車(株)、加須タクシー(株)、騎西タクシー(有)	【デマンド型乗合タクシーの運行】 加須市全域及び久喜市内栗橋駅西口	利用者の増加に伴い、時間帯によって予約ができない状況が発生していたことから、利用者のニーズに応えるため、運行車両を1台増車した。	A ●計画に位置付けられた事業は適切に実施された。 ・市全域等におけるデマンド型乗合タクシーの運行により、交通弱者の移動手段の確保や公共交通不便地域の解消が図られている。 ・各フィーダー系統については、利用状況や意見等を踏まえて必要に応じ改善を図っている。	C 利用登録者数は、目標である30,000人に対し、13,402人の登録となっている。前年度からは1,002人増加している。 1日平均利用者数は、目標である120人に対し、99.5人であった。 利用登録者数及び利用者数について、引き続き目標値の達成に努めるものとする。	昨今の高齢ドライバーによる交通事故発生状況を鑑みると、運転免許証の自主返納者は今後増加することが見込まれ、コミュニティバス(特にデマンド型乗合タクシー)に対するニーズは増えていくと思われる。 効果的な周知方法を検討し、利用登録者数の増加を図っていくこととする。 今後においても、市民ニーズや利用状況を分析のうえ、より利用しやすいデマンド型乗合タクシーの運行に努めるものとする。

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

協議会名: 寄居町地域公共交通活性化協議会
 評価対象事業名: 地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)
大信観光花園有限会社 有限会社本間タクシー 株式会社桜交通	・デマンド型の乗合タクシーを町内全域運行する。 ・事前予約に応じてドア・ツー・ドア方式により運行する。	利用状況のデータを蓄積・分析するとともに利用率向上に向けた検討を行った。 HP等の情報の見直しや発信を積極的に行った。	A 計画どおり事業は適切に実施された。	B H28(27.10~28.9)事業 目標 ・利用者数 44人/日 ・収支率 27% 結果 ・利用者数 45人/日 ・収支率 23%	収支率が目標に及ばなかった。 福祉車両の導入、機器の入替により運行経費が増加したことが要因の一つと考える。 予約システムの調整や広報宣伝により乗合率を向上させ利用者数を増やしていく。 予約ができなかった対象者の集計情報を生かす。当日予約の希望が多い。利用時間の重複が問題と考える。 システム等再確認を行う。 新規登録者は増えているが利用に結びついていないケースがある。 利用しやすい環境づくりを目指す。

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

協議会名:毛呂山町地域公共交通活性化協議会

評価対象事業名:地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)
株式会社越生タクシー	山地域コース	利用者ニーズを把握し、地域全体を見渡した持続可能な交通ネットワークを構築するため、平成28年7月から8月にかけて、町内2,000世帯を対象にもろバスおよび公共交通に関するアンケート調査を実施した。抽出された課題等の解消に向け、現在、毛呂山町地域公共交通活性化協議会において協議を進めているところである。	A 事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された。	B ※もろバス3コースを包括して設定 【目標】 ①利用者数 143人/1日 ②往復利用者割合 75% ③満足度 75% 【実績】 ①利用者数 97人/1日 ②往復利用者割合 46% ③満足度 89%	利用者の満足度は高いが、利用者数、往復利用割合については減少傾向である。住民アンケート等で得られた地域公共交通に対する利用者ニーズや課題の把握により、さらなる利便性向上に向けた取組みを実施し、持続可能な運行を目指す。具体的には平成29年10月より見直し運行計画に基づく運行を開始する予定であり、ダイヤ・ルートの見直し、土曜(隔週)運行の実施を検討している。

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

協議会名: 本庄市交通政策協議会

評価対象事業名: 地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)
朝日自動車株式会社	本庄北地域デマンド	<p>○予約ルールの変更、停留所の見直しなど、市民・利用者の声を反映する形で改善を進めた。</p> <p>○自治会など地域コミュニティの協力を得て、説明会を開催した。</p> <p>○前回の事業評価結果を受け、平成29年度計画の目標を見直した。</p>	A	B 目標利用者数 : 26,500人 H28年度利用者数: 13,522人	<p>運行開始から3年が経過し、特定の利用者による運行の硬直化が課題の一つである。これまで小さな改善を重ねてきたが、利用者離れを起こさないよう満足度の向上に取り組む必要がある。</p> <p>また、運行方法や予約システムの抜本的な見直しを検討していく必要がある。</p>
	本庄南地域デマンド		A	B 目標に対する実利用者数の割合は52%(前年度: 57%)であった。利用者数は前年度比10%減となったが、交通不便地域(児玉山間地域)では前年度比10%増となる等、新たな需要の高まりも確認できた。交通弱者の移動手段としての定着は確実に進んでいる。	
	児玉市街地デマンド		A	B 計画に位置付けられた事業は適切に実施された。	
	児玉山間地域デマンド		A	B	
本庄観光株式会社	本庄シャトル便	<p>○シャトル便を運行している本庄駅ー本庄早稲田駅間に競合(*)する路線バス(民間2路線)がある現状を踏まえ、今後のシャトル便のあり方について議論を進めていくことを確認した。</p> <p>(*)H25.10運行開始時にはシャトル便のみだった路線に、現在は2事業者が乗り入れている。</p> <p>○前回の事業評価結果を受け、平成29年度計画の目標を見直した。</p>	A 計画に位置付けられた事業は適切に実施された。	B 目標利用者数 : 17,300人 H28年度利用者数: 10,953人 目標に対する実利用者数の割合は63%(前年度: 60%)であったが、利用者数は前年度比4.5%増であり、利用者数の増加傾向が続いている。 交通結節点(本庄駅、本庄早稲田駅)を結ぶ交通手段として定着が進んでおり、市内移動を快適に行えるネットワークの形成に寄与している。	<p>③に記載のとおり、シャトル便を取り巻く環境が運行開始時から変化している。実情に合った地域交通網を形成していくという観点から、シャトル便を含めた各交通手段の分担する役割を整理していく必要がある。</p>

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

協議会名: 深谷市地域公共交通会議

評価対象事業名: 地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)
(株)協同バス	北部定期便: 深谷駅北口～渋沢栄一記念館～深谷駅北口 (車両減価償却費等国庫補助金申請系統) 西循環便: 深谷駅南口～深谷駅北口～深谷駅南口 (車両減価償却費等国庫補助金申請系統)	<ul style="list-style-type: none"> ・北部デマンドの深谷赤十字病院への直接運行の開始 ・インターネット予約の開始 ・定時定路線とデマンドバスの結節点の追加 ・民間路線バスとデマンドバスの結節点の追加 ・運転免許証自主返納者への割引の開始 	A 計画どおり事業は適切に実施された。	【目標1:利用者数の増加】 (目標)59,700人 (実績)80,492人 【目標2:利用者満足度の向上】 (目標)利用者アンケートで各項目とも前年度調査以上の満足度 (実績)12項目中、2項目達成 【目標3:収支率の向上】 (目標)10.6% (実績)8.9%	平成27年度に運行の大幅な見直しを実施してから1年以上経過し、市民への定着が進んだ結果、利用者数は目標値を大きく上回ることができた。しかし、利用者満足度は前年度に比べ全体的に低下しており、収支率も前年度よりやや改善したものの目標を達成することができなかった。
花園観光バス(株)	北部デマンド 南部デマンド	(同左)	A 計画どおり事業は適切に実施された。	B 【車両取得に係る目標:車椅子利用者数】 (目標)8人 (実績)6人 利用者数については、目標を大きく上回ることができた。車椅子利用者は目標値を若干下回り達成できなかったが、概ね目的を達成していると考えている。利用者満足度、収支率に関しては目標を達成できなかった。	今後は、利用者アンケートの結果を踏まえ、定時定路線とデマンドバスの結節点の見直し、デマンド地区間の結節点の追加等を実施し、利用ニーズが高い場所へのアクセスを確保できるよう改善していく。また、運賃収入外の収入確保策を検討し、収支率の向上を図っていく。
深谷タクシー(有)	岡部デマンド 川本デマンド 花園デマンド	(同左)	A 計画どおり事業は適切に実施された。	(同左)	引き続き自治会における説明会や広報活動を行い、市民のバス利用に対する理解を深め、利用者の増加と収支率の改善に繋がるよう情報提供に努めていく。

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

協議会名:白岡市地域公共交通確保維持改善協議会

評価対象事業名:地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)
昭和タクシー有限公司	<p>【デマンド交通「のりあい交通」】 事業者名:昭和タクシー 運行区域:市内全域 運行日:月曜～土曜(祝日、年末年始運休) 運行時間帯:8時30分～17時30分 運行本数:8便/日 運行車両:セダン型車両 運賃:500円(障害者、小学生は300円、乗り合い利用の割引制度あり)</p>	<p>本事業は、デマンド型交通という市民にとって新たな形態であることから、パンフレットの全戸配布や地域のイベントにおける啓発品の配布等を実施し、地域の自治会などの協力を得ながら事業の認知度向上と制度の理解促進を図った。</p>	<p>A 計画に基づき、適切に実施した。</p>	<p>A 1日当たりの利用者数が目標の30人に対して31.2人、収支率が目標の15%に対して16.8%となり、1日当たりの利用者数、収支率ともに目標に到達した。平成28年度に実施したアンケート結果から、多くの市民が本事業を認知していることが確認できたことから、今後は、さらに制度の理解促進を図っていく必要があると考える。</p>	<p>引き続き、地域の自治会などに制度の理解促進、利用者の増加につなげていくための協力を求めるとともに、運行実績を分析して効率的な運行となるように努めていく。</p>

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

協議会名: 小鹿野町地域公共交通会議
 評価対象事業名: 地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)
秩父丸通タクシー株式会社	<p>運行系統名:小鹿野伊豆沢長若乗合タクシー</p> <p>本乗合タクシー運行事業は、主に小鹿野町の交通空白地域を含めた地域を運行し、西武鉄道・西武秩父駅及び秩父鉄道・秩父駅から町内へと運行している西武観光バス小鹿野線の複数の停留所と接続し、町営バスとの接続や地域内の高齢者・障害者を中心とした利便性向上を図るものである。</p>	<p>前回の評価結果では、現状の運行体制を維持し、利用促進のためのPRを行うこととした。今年度は、便数の削減や料金の値上げなどを行うことなく、運行体制を維持することができた。また、町営バス77歳以上優待券申請時や民生委員会等で乗合タクシーのPRを実施した。</p>	<p>A</p> <p>事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された。</p>	<p>A</p> <p>事業が計画に位置づけられた目標である利用者数を達成できなかった。</p> <p>【目標】年間利用者数 2,850人 【実績】 2,612人</p>	<p>乗合タクシーの運行目的は、自家用車等の利用が困難な交通弱者のための公共交通手段を確保することである。運行開始から3年が経過し、限られた範囲における交通弱者等を対象とした事業であるため、利用者が固定化傾向にある。</p> <p>通院や買い物などを目的とした定期利用者も多く、利便性も比較的高いと思われることから、今後とも町営バス77歳以上優待券の申請時に案内を行うなどPRによる利用者の維持やきめ細やかな利便性の向上に努める。</p> <p>また、西武観光バス・町営バス等も含めた公共交通全体の状況を勘案しながら、現状で運行していない交通空白地域等にも運行エリアを拡大するなど、乗合タクシーの運行体制の見直しを行っていく必要がある。</p>

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

協議会名: 幸手市地域公共交通会議
 評価対象事業名: 地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の 事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点 (特記事項を含む)
株式会社 東埼玉観光バス	幸手市デマンド	前回事業評価なし	A	B 当初の計画運行時間を実績運行時間が下回った点がみられた。実績運行時間が下回った原因は、運行が初年度の事業であったため。	目標及び達成状況においては、初年度の事業(H28)の実績値をもとに、利用者層の年代・障害種別を把握し、改善していく。

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

協議会名: 旭市地域公共交通会議
 評価対象事業名: 地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)
千葉交通株式会社 干潟地区ルート(CC-6-1)	干潟支所～東6区集会所～東1区集会所～旭中央病院	平成23年4月の本格運行開始以降、交通空白地域解消を目的とした一部ルート延伸や、JRにあわせた運行ダイヤ改正、安全を考慮した運行ルートの変更など、より利便性の高いバスを目指し、各種の見直しを図ってきた。 これらにより、地域内フィーダー系統確保維持計画に掲げた「生活の質の向上」「自家用自動車で送迎してもらっていたものがバス利用へ移行」など、移動の円滑化も図られ、計画実施による効果が見られている。	A 計画どおり事業は適切に実施されている。	目標である10人/平日1便、5人/休日1便に対して、実績は8.2人/平日1便、4.9人/休日1便であった。 平成25年4月に新たな地区への乗り入れを開始したことにより、公共交通空白地域の解消が図られるとともに、地域に公共交通の利用が浸透・定着してきたが、学生の通学利用の多い早朝便での利用者の減少等により、定量的な目標を達成するに至らなかった。	目標値について、10人/平日1便、5人/休日1便に引き続き設定する。 平成29年度において、市内全域を対象とした地域公共交通網形成計画を策定予定であり、この中においてより詳細な乗車実績の分析や利用者の意見聴取等による利用ニーズの把握を行い、必要に応じて運行ルートやダイヤ等の見直しや新たな交通モードの導入を検討するなど、地域にとって望ましい公共交通の構築を目指す。
千葉交通株式会社 干潟地区ルート(CC-6-2)	干潟支所～湯木坂上～干潟駅		A 計画どおり事業は適切に実施されている。		
千葉交通株式会社 干潟地区ルート(CC-6-3)	干潟駅～湯木坂上～東1区集会所～旭中央病院		A 計画どおり事業は適切に実施されている。		
千葉交通株式会社 干潟地区ルート(CC-6-4)	旭中央病院～東1区集会所～市役所～旭中央病院		A 計画どおり事業は適切に実施されている。		
千葉交通株式会社 干潟地区ルート(CC-6-5)	旭中央病院～市役所～湯木坂上～干潟支所		A 計画どおり事業は適切に実施されている。		
千葉交通株式会社 干潟地区ルート(CC-6-6)	旭中央病院～東1区集会所～東6区集会所～干潟支所		A 計画どおり事業は適切に実施されている。		

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

協議会名: 印西市地域公共交通会議
 評価対象事業名: 地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)
ちばレインボーバス(株)	<p>【コミュニティバス(ふれあいバス)】 運行系統: 印旛支所ルート (印旛支所～竜腹寺～印旛支所) 23.2km 運行日: 毎日運行 運行時間帯: 7時30分～18時23分 運行本数: 8便/日(循環型) 運行車両: 1台 運賃: 大人(中学生以上)100円 ※小学生・乳幼児・障害者手帳保持者及び介助者1人まで無料</p>	<p>利用者が目標を下回っている状況を踏まえ、利便性向上策を検討し、平成27年10月より運行本数を1日6便から8便に増便するとともに運行ダイヤを見直した。</p>	<p>A 印旛支所や日本医大千葉北総病院が立地する印旛日本医大駅エリアと、住宅が集積し大規模な商業施設が立地する印西牧の原駅周辺エリアを結び、荒野・竜腹寺地区を経由することにより、公共交通不便地域の解消を図ることを目的に、計画どおり実施された。</p>	<p>B 結果: 1日 47.32人 ・運行の見直しにより、前年度に比べ利用者が伸び、平成28年7月以降は目標人数50人を超える利用があった。 ・公共交通不便地域(竜腹寺、荒野)における利用があり、公共交通不便地域の解消が図れた。</p>	<p>これまで目標利用者数を下回った要因として、平成24年6月に行ったルート延伸に伴う減便が考えられたことから、平成27年10月より運行本数を増やすとともに運行ダイヤを見直した。 その結果、平成28年7月以降は目標人数50人を超える利用があり、今後も利用動向を注視しつつ、継続的に利便性向上策の検討や利用促進を図り、更なる利用者の増加を目指す。</p>

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

協議会名:いすみ市地域公共交通活性化協議会

評価対象事業名:地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の 事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点 (特記事項を含む)
小湊鉄道(株) いすみ循環-1	市役所大原庁舎～長者町駅～ いすみ医療センター～市役所 大原庁舎	平成27年10月からの系統数の削減及び利用料金の値上により、利用者数は減少となったが、これにより事業のスリム化が図ることが出来、収支率の改善が行われ、事業の維持・適正化に努めた。	A 計画に位置付けられた事業は適切に実施されている。	B 補助対象期間(平成27年10月から平成28年9月)中の利用者目標32,000人のところ、実績は17,674人であり、系統の減少による影響が大きく、大幅に目標数値を下回ってしまった。通学路線の運休、高齢の利用者がコミュニティバスからデマンド交通への移行したことによる減少が大きな要因と考える。しかし交通弱者にとって重要な交通津手段であり、路線バスの存在は大きく、利用者は減少したが移動手段としての維持は必要である。また、事業のスリム化により収支率は、前年に比べ若干の上昇となっている。	利用実態を注視し、運行時刻の見直しに配慮しつつ、今後も利用促進に向けた継続的な啓発を実施する。
小湊鉄道(株) いすみ循環-2	市役所大原庁舎～長者町駅～ 房信夷隅町支店前		A 計画に位置付けられた事業は適切に実施されている。		
小湊鉄道(株) いすみ循環-3	市役所夷隅庁舎前～下布施～ 市役所大原庁舎		A 計画に位置付けられた事業は適切に実施されている。		

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

協議会名: 香取市地域公共交通協議会

評価対象事業名: 香取市地域内フィーダー系統確保維持国庫補助金

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性		⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)
千葉交通株式会社	小見川循環バス(西ルート)	運行状況の分析を行い、平成28年4月には電車等への接続を考慮した時刻表改正を実施した。	A	計画通り事業は適切に実施された。	A 計画目標12,500人に対し、実績は14,877人となった。	今後も継続して運行状況の分析や住民ニーズの把握を行うとともに、適切なタイミングでの時刻表改正や、利用促進の取り組みを実施していく。
株式会社千葉交タクシー	小見川乗合タクシー	平成27年10月より本格運行へ移行、利用者の意見聴取や運行業者との意見等を受け、予約受付時間について一部変更を実施。	A	計画通り事業は適切に実施された。	A 計画目標5,100人に対し、実績は5,133人となった。	今後も継続して運行状況の分析や住民ニーズの把握を行うとともに、利用促進の取り組みを実施していく。

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

協議会名:山武市地域公共交通活性化協議会

評価対象事業名:地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)
事業者名:ちばフラワーバス(株) 運行系統名:山武市基幹バス(蓮沼⇄山武)	山武市基幹バス 【コムバス】 (蓮沼⇄山武)	改善点とした内容を以下のとおり反映し利用者の確保等へつなげた。	A ●計画に位置付けられた事業は適切に実施されている。 ・アンケートの集計結果や利用状況を踏まえて必要に応じ改善を図り、来年度以降も継続する。	【利用者数】 (目標) コムバス・デマンド交通の利用者数を8,000人/月以上とする。 (達成状況) コムバス 3,473人/月 デマンド交通 3,877人/月 合計 7,350人/月	【コムバス】 コムバスについては、引き続き利用者ニーズの把握に努め、改善案を運行計画に反映させ、既存利用者以外の利用者を確保する。
事業者名:房総自動車(有) 運行系統名:山武市乗合タクシー(成東、山武、松尾・蓮沼)	山武市乗合タクシー 【デマンド交通】 (成東、山武、松尾・蓮沼)	【コムバス】 利用者から要望の多かった一部地域の路線変更を実施し、新たな利用者確保へつなげた。 【デマンド交通】 地域ごとに利用頻度が異なることから、配車環境を見直し、運行を効率化することで、利用者の待ち時間短縮等につなげた。	A ●計画に位置付けられた事業は適切に実施されている。 ・アンケートの集計結果や利用状況を踏まえて必要に応じ改善を図り、来年度以降も継続する。	目標は未達であり、前回評価時の7,807人/月から利用者数は457人/月の減少となり、コムバス、デマンド交通ともに減少となった。 減少の要因としては、コムバスの無料お試し乗車キャンペーンを実施しなかったこと、デマンド交通の安全運行の徹底により実稼働時間が少なくなったことが考えられる。	【デマンド交通】 デマンド交通については、乗合率を高め効率的な運行となる配車を検討し、利用者満足度を高めつつ、モビリティ・マネジメントによる新たな利用者確保に努める。
事業者名:両総観光(株) 運行系統名:山武市乗合タクシー(成東、山武)	山武市乗合タクシー 【デマンド交通】 (成東、山武)	【コムバス・デマンド交通】 モビリティ・マネジメントの強化として、以下の施策を実施し、利用者の増加に努めた。 ①公共交通マップの作成・配布 ②運転免許自主返納者への優遇措置の実施 ③市内イベントへの出店 ④市が発行する広報誌によるPR	A ●計画に位置付けられた事業は適切に実施されている。 ・アンケートの集計結果や利用状況を踏まえて必要に応じ改善を図り、来年度以降も継続する。	【公共交通に関する満足度】 (目標) 公共交通に関する満足度を50%以上とする。 (達成状況) 公共交通に関する満足度40.5%	【コムバス・デマンド交通】 ・市内公共交通の周知や一体的な利用促進を図るため、モビリティ・マネジメントを展開する。 ・地域間幹線系統への接続性の改善等、市内の各交通モード間の連携を強化し、利用者の満足度向上を図る。
事業者名:(有)松尾タクシー 運行系統名:山武市乗合タクシー(成東、松尾・蓮沼)	山武市乗合タクシー 【デマンド交通】 (成東、松尾・蓮沼)		A ●計画に位置付けられた事業は適切に実施されている。 ・アンケートの集計結果や利用状況を踏まえて必要に応じ改善を図り、来年度以降も継続する。	目標50%を9.5ポイント下回っており、前回評価時の40.3%から0.2ポイントの増加となったが、ほぼ横ばいとなっている。 新たな公共交通体系の周知不足や少子高齢化等の環境変化による利用者ニーズの変化に充分に対応できていないことが要因と考えられる。	

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

協議会名: 大網白里市地域公共交通活性化協議会
 評価対象事業名: 地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)
小湊鐵道株式会社	大網白里市コミュニティバス(中部コミュニティセンター発着) 左回り循環: 4便 右回り循環: 5便	平成27年4月に増便した平日早朝便について、利用者の増加を図るため、広報や市HP等を用いて周知活動を行った。事業者と協議を行った結果、バスの運行定時性を上げるため、ダイヤを一部改正した。	A 事業は計画通り適切に実施された。	C 設定した目標値(利用者数)については達成できていない。 効果については当初の目的と合致した成果が見られている。	利用者の減少について、特に平日早朝便は利用者数の低迷が続いていることから、客観的なデータ等に基づいて分析を行う必要がある。 面的なネットワークの中で、コミュニティバスをどのように位置づけるか検討する必要がある。

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

協議会名: 東金市地域公共交通会議
 評価対象事業名: 地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)
東金タクシー有限会社	デマンド交通 (東金市乗合タクシー) 市内全域	利用促進策については、広報紙やHPへの掲載、各地区や施設へのパンフレットの配布、東金市マスコットキャラクターを活用した啓発活動等により周知徹底を図っている。主な利用者である高齢者や障害者等に対する周知についても、担当部署と連携して実施した。安易な予約キャンセルを防ぐために、利用者登録の際に、利用方法や主旨をよく説明するよう努めた。曜日や時間帯によって利用が集中した場合は一時的に増便を行うなど、交通事業者と協議の上、利用促進に努めた。予約システムについても、より乗合率が高まるよう、時間設定を変更したほか、移動速度等の効果の見込めるものから実施することとした。エリア分けについては、これまでのデータを分析した結果、3台全ての市内全域運行を継続することとした。	A 計画通り事業は適切に実施された。	B 【目標数値】 1日当たり利用者数 50人 (前回目標 45人) 【結果】 1日当たり利用者数 45.2人 利用者数は増加してきているものの、目標数値は達成することができなかった。 ・時間帯によっては利用希望が集中し、予約が取れないことがある。 ・年末年始など利用が落ち込む時期がある。 ・乗合率が伸びていない。	アンケート調査等を活用して需要を把握し、引き続き新規利用者や団体利用者の取り込みをはじめとする利用促進策を講じていく。地域内フィーダー系統としての認知度の向上を図り、公共交通の相互連携に配慮した取り組みを推進していく。
南総タクシー株式会社					
関口タクシー有限会社					
小川タクシー有限会社					

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

協議会名: 市原市地域公共交通会議

評価対象事業名: 地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)
小湊鉄道(株)	①市原鶴舞BT～湯原～里見駅(路線バス)	今年度においても、計画どおり事業を実施するとともに、小中一貫教育校の通学に対応した運行ダイヤ・運行ルート改善検討等を適宜行った。	A 計画どおり事業は適切に実施された。	A 平成25年4月に加茂地区の5校を統合して開校した小中一貫教育校の児童生徒の通学手段の確保に寄与した。 目標「1日の平均利用者30人」に対して、「1日平均利用者33.76人」であった。	今後も、小中一貫教育校の通学に対応したダイヤ編成等を検討していく。 また、平日の登下校の時間帯以外の便及び土日祝の便は非常に利用が少なく、運行の維持が厳しい状況であったため、平成28年12月以降、利用が少ない便の見直しを行うとともに、減便を行った。
	②市原鶴舞BT～山口駒込～里見駅(路線バス)				
	③市原鶴舞BT～高滝駅～里見駅(路線バス)				
	④市原鶴舞BT～市原湖畔美術館～山口駒込～里見駅(路線バス)				
	⑤市原鶴舞BT～市原湖畔美術館～高滝駅～里見駅(路線バス)				
小湊タクシー(株)	①戸田地区(デマンドタクシー)	平成28年度から補助対象事業である。(平成27年10月1日本格運行移行)	A 計画どおり事業は適切に実施された。	A 交通空白地域である両地区において、新たな交通手段を創出することにより、高齢化社会における交通弱者等の生活交通の確保を図った。 目標「1運行あたりの平均乗車人数 1.2人/回」に対して、「1.3人/回」であった。	今後も、高齢者を中心とした交通弱者に対応したダイヤ編成等を検討していく。
	②養老地区(デマンドタクシー)				

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

協議会名: 長南町地域公共交通活性化協議会
 評価対象事業名: 地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)
事業者名:(有)長南タクシー 運行系統名:町内全域	長南町全域でドア・ツー・ドア方式	前年度の評価結果を踏まえ、着実に事業を実施している。	A 計画に位置付けられた事業は適切に実施された。	A ・計画年3,645回に対し、5,032回運行し、延べ5,677人の交通手段の確保ができた。	・本事業を活用し、公共交通空白地域の解消、幹線への接続が出来る交通手段として継続していく。 ・郵送により利用案内を配布したり、積極的に利用促進を図っている。今後も継続してPRをしていく。 ・H28年度は、公共交通網形成計画(地域公共交通調査事業を活用)を策定中でありニーズ調査を通じて、デマンド乗合タクシーも運行時間帯等の見直しを図り次年度以降の生活交通確保維持改善計画で反映予定。
事業者名:ゆたか自動車(株) 運行系統名:町内全域	長南町全域でドア・ツー・ドア方式	前年度の評価結果を踏まえ、着実に事業を実施している。	A 計画に位置付けられた事業は適切に実施された。	B ・計画年3,645回に対し、2,937回運行となっているが、前年度から654回増となり、延べ3,188人の交通手段の確保ができた。	・本事業を活用し、公共交通空白地域の解消、幹線への接続が出来る交通手段として継続していく。 ・H28年度は、公共交通網形成計画(地域公共交通調査事業を活用)を策定中でありニーズ調査を通じて、デマンド乗合タクシーも運行時間帯等の見直しを図り次年度以降の生活交通確保維持改善計画で反映予定。

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

協議会名: 茂原市地域公共交通会議

評価対象事業名: 地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)
<p>事業者: 小湊鐵道株式会社 運行系統: 南部(鶴枝)・南部(五郷)</p>	<p>南部(鶴枝): 茂原駅～三ヶ谷神社～茂原駅 南部(五郷): 茂原駅～石神集会所～茂原駅</p>	<p>老朽化しているバス車両の更新を行い、バリアフリー対応のノンステップバスを導入し、利用者の安全性の確保及び利便性の向上を図った。 運賃収入以外の収入確保のためバス車体に有料広告の掲載を行った。 市HPや広報等により運転経歴証明書による割引(市民バス・デマンド交通運賃半額)の周知を図った。</p>	<p>A 計画どおり事業は適切に実施された。</p>	<p>B 目標値にはいたらなかったが、前年よりも北部(豊岡)コースは2,206人(28.3%増加)、東部コースが5,999人(17.1%増加)、南部(鶴枝)・南部(五郷)コースは6,736人(14.5%増加)と全てのコースで利用者数が増加した。 全体では、2,214人の増加、前年比で17.4%の増加となり、地域住民の移動手段として大きな役割を果たしている。</p>	<p>老朽化しているバス車両1台の更新を行う。その際バリアフリー対応のノンステップバスを導入し、利用者の安全性の確保及び利便性の向上を図る。 運賃収入以外の収入確保のため、既存及び更新する車両のバス車体等に、有料広告の掲載を募集し掲載を行う。 現在の運行計画を評価・検証・改善(見直し)するにあたり、利用状況やニーズ等を把握・分析するため、アンケート調査等を実施する。</p>
<p>事業者: 都自動車株式会社 運行系統: 北西エリア</p>	<p>茂原市北西エリア</p>	<p>地域公共交通会議(H28.6)にて、デマンド運行エリア拡大及び乗降場追加が承認され、公共交通空白地域の解消及びデマンド交通の利便性の向上に努めた。(H29年度反映予定) 市HPや広報等により運転経歴証明書による割引(市民バス・デマンド交通運賃半額)の周知を図った。</p>	<p>A 計画どおり事業は適切に実施された。</p>	<p>B 利用登録者数は目標である500人を達成することができた。 利用者数は目標値と比べると下回っている。しかしながら、運行開始当初から利用者数は徐々に増加傾向にあり、今年度は890人の利用があった。前年と比較すると115人の増加、前年比は14.8%の増加となっている。 また、60歳以上の利用者が97%以上を占めていることから、交通弱者の移動手段が確保され、外出機会の増加に大きく寄与している。</p>	<p>広報・自治会への回覧等を通じ、更なる周知を図ると共に、必要に応じて説明会を実施する。 運行エリアの拡大や乗降場所の増加等、デマンド交通の利便性の向上を図るため、運行内容の改善に柔軟に対応する。 現在の運行計画を評価・検証・改善(見直し)するにあたり、利用状況やニーズ等を把握・分析するため、アンケート調査等を実施する。</p>

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

協議会名: 勝浦市地域公共交通活性化協議会
 評価対象事業名: 地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の 事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点 (特記事項を含む)
小湊鉄道株式会社	勝浦市予約制乗合タクシー (上野地区、上大沢地区、小松野地区、大楠地区及び松部・串浜地区の一部)	運行1年目である平成27年度の事業評価は平成29年度事業に反映しているが、その際実施したアンケートから利用者のニーズを把握し、改善を図っている。	A 事業は計画どおり適切に実施された	B 目標は、年間の利用者数4,650人(19人/日)であり、実績は4,282人(17.6人/日)となり目標には達しなかった。しかし、昨年の実績から332人(1.3人/日)増加している。	運行区域内で地区別の高齢者利用率を調べた結果、利用率が低い地域がいくつか浮き彫りになった。今後、これらの地区に対し重点的に周知を徹底する。また、要望の多かった土曜運行について協議中である。

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

協議会名: 鴨川市地域公共交通活性化協議会
 評価対象事業名: 地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)
鴨川日東バス株式会社	①北ルート 金山ダム～鴨川駅西口～内浦山県民の森	前回に続く目標達成を目指し、利用者増加を図るため、市内公共交通マップ及びバス時刻表の作成・全戸配布や公共交通の乗り方教室などの利用促進に取り組むとともに、利用者ニーズに即したサービスとするための利用状況把握を継続的に実施した。	A 事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された	A 利用目標38,206人/年に対し、実績では38,896人/年であった。 内訳は以下のとおり ・北ルート 実績 16,644人/年 対前年比 105.6% ・清澄ルート 実績 7,370人/年 対前年比 93.4% ・南ルート 実績 14,882人/年 対前年比 113.2%	「鴨川市地域公共交通網形成計画」に基づき、今後も利用者増加に向けた利用促進事業に取り組むとともに、利用実績や利用者アンケート等の実施によるニーズの把握等に基づき、必要に応じたダイヤ改正等の検討、見直しを行う。
	②北ルート 金山ダム～鴨川市役所～鴨川駅西口				
	③南ルート 曾呂終点～鴨川駅西口～鴨川駅前				
	④南ルート 曾呂終点～江見小学校～鴨川駅西口				
	⑤南ルート 浦の脇～東条病院～鴨川駅前				
	⑥清澄ルート 奥清澄～天津駅前～天津小湊支所				

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

協議会名: 御宿町地域公共交通会議
 評価対象事業名: 地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)
株式会社 小湊鉄道	町内全域をカバーする乗合運行(デマンド型)を地域内フィーダー系統確保維持事業として、平成26年10月1日から実施。これは、ルートを決めず、運行エリア内を乗合で移動するもので、事前予約型・町内全域乗合タクシーとして運行している。	利用者のニーズに基づき、共通乗降場所を町内4か所追加し、利用促進に取り組んだ。	A (事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された。)	A (事業が計画に位置づけられた目標を達成した)	乗合運行エビアミー号の運行を開始して2年が経過した。 利用者の状況を見ると、同じ方の利用が多く、通勤や買い物、通院など日常生活に必要な公共交通になっている。しかし、到着時間を指定されるなど、一部利用者からタクシー並みの要求があるので、運行方法等の工夫により解決できるか運行事業者と検討する必要がある。 また、さらに高齢化が進展するなかで、自動スライドドアや自動ステップ装置が搭載された車両への買い替えが必要になる。

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

協議会名: 横芝光町地域公共交通会議
 評価対象事業名: 地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)
事業者名: 有限会社横芝タクシー 運行系統名: 横芝光町デマンドタクシー	横芝光町デマンド(乗合)タクシー(町内全域)	<p>【前回の評価結果】 事業が計画に位置付けられたとおり、適切に実施されており評価できる。 目標については、両事業共に目標値から乖離する結果となった。目標値については実績値を基に見直すこととしているが、今後の事業計画策定のためには計画と実績の乖離についての検証を実施することが望ましい。引き続き、利用者ニーズに沿った持続可能な公共交通となるよう運行計画を検証していくことを期待する。</p> <p>【反映状況】 実績値を基に循環バス・乗合タクシーの利用者数を変更。</p>	<p>A</p> <p>●計画に位置付けられた事業は適切に実施されている。 ・利用者からのご意見や利用状況を踏まえて必要に応じ改善を図り、来年度以降も継続する。</p>	<p>【利用者数】 目標である循環バス・乗合タクシーの利用者数を3,000人/月に対し、平成28年度の平均利用者は、2,369人となっており、目標を達成していない。</p> <p>【公共交通に関する満足度】 目標値は満足度40%以上とするとしている。今年度実施した総合計画策定に係るアンケートでは、直接的に満足度を図る質問ではないが、道路・交通に関する満足度調査では、普通が39.5%、やや満足・満足が10.1%で、普通以上が49.6%となっている。また、公共交通利用者へデマンド交通(乗合タクシー)の導入についての問いでは、55%以上の方が便利になったと回答している</p>	<p>【循環バス】 ・JR横芝駅への乗継接続を考慮した時刻表に変更し、利用者の増加に努める。</p> <p>【乗合タクシー】 運行時間を1時間早め、通勤・通学での新たな利用者の確保に努める。</p> <p>※利用者の目標値については、当初設定時の数値が過大であったため、平成29年度生活交通確保維持改善計画においては、目標値の見直しを行いました。</p>
事業者名: 房総自動車有限公司 運行系統名: 横芝光町デマンドタクシー			<p>A</p> <p>●計画に位置付けられた事業は適切に実施されている。 ・利用者からのご意見や利用状況を踏まえて必要に応じ改善を図り、来年度以降も継続する。</p>		
事業者名: 両総観光株式会社 運行系統名: 横芝光町デマンドタクシー			<p>A</p> <p>●計画に位置付けられた事業は適切に実施されている。 ・利用者からのご意見や利用状況を踏まえて必要に応じ改善を図り、来年度以降も継続する。</p>		

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

協議会名: 君津市地域公共交通会議

評価対象事業名: 地域内フィーダー系統確保維持費補助金

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)
大新東株式会社君津営業所	小櫃・上総地区	利用実績の公表を行うとともに、効率的な配車等により、利用者が増加した。	A 事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された。	A 目標利用者数45人/日に対し、実績は50.2人/日であった。 目標収支率14.6%に対し、実績は16.1%であった。	地域住民への利用促進に加え、観光客に対する利用促進を図り、利用者増を目指す。
	亀山地区(スクールを含む)	利用実績の公表や利用啓発を行った。	A 事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された。		通勤や通学(高校生)など、スクール利用者以外の利用促進を図る。

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

協議会名:大島町交通対策協議会

評価対象事業名:地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)
大島旅客自動車株式会社	大島町デマンドバス ・北部循環線 ・南部循環線	客観的なデータに基づく裏づけを調査分析する。小さな改善を積み重ねる。	B 広報での周知や各団体への周知を依頼し、利用者への周知等図った。	C ・北部循環線の利用者は減。 ・南部循環線の利用者は増加傾向。	住民説明会を開催し現状を説明したが、これ以上の成果は見込めない。H29年9月末で事業を抜本的に見直す。
大島旅客自動車株式会社	車両減価償却費等国庫補助金				

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

協議会名: 檜原村地域公共交通活性化協議会

評価対象事業名: 地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)
<p>大谷商事(有) 運行系統名: 神戸線</p>	<p>神戸園入口～郷土資料館</p>	<p>利用促進策として、村内公共交通の見直し、改善を目的として、基幹バス路線のダイヤ改善のため、利用者が極端に少ない便(夜間便)の利用実態を把握すべくOD調査を実施し、OD調査の調査結果を平成28年9月のダイヤ改正に夜間便を減便し、昼間便に振り替える形で反映させた。基幹バスとの連携を強化することによる運行システムやサービス水準の改善等を図り、需要(利用)を開発してバス交通を活性化することを目標とした。</p>	<p>B 事業は概ね適切に実施された。・地域一体となった取組みを通じて利用者促進を図っているが、少子・高齢化により通学に利用する児童・生徒数が減少しており、平成28年9月末での利用者数は1日平均11.6人であり、全体に減少している。地域住民にとって重要な交通機関であり、村内公共交通の見直し、改善を図りながら、来年度以降も継続していきたい。</p>	<p>B 1日平均利用者数は、11.6人(対前年度比13.4%減)1本当たりの乗車目標は2人に対して1.2人となったが、児童・生徒数の減による通学利用の減少によるものである。利用者数は減少しているが、地域住民の通院、通学、買い物等、日常生活に必要な地域内交通移動を維持し、地域を活性化させる目標については充足されており、幹線へ接続できる交通手段の確保ができた。</p>	<p>・維持可能な公共交通とするためには、地域住民の自主的・積極的な利用が不可欠であり、今後も利用者へのアンケート調査の実施等により利用促進に係る啓発等を推進していくとともに、より一層の環境整備を行う。・基幹バス路線のダイヤ改正後の利用者の動向を調査、分析し、村内公共交通の見直し、改善を実施する。</p>
<p>(有)横川交通 運行系統名: 藤倉線</p>	<p>上白岩～藤倉バス停</p>	<p>利用促進策として、村内公共交通の見直し、改善を目的として、基幹バス路線のダイヤ改善のため、利用者が極端に少ない便(夜間便)の利用実態を把握すべくOD調査を実施し、OD調査の調査結果を平成28年9月のダイヤ改正に夜間便を減便し、昼間便に振り替える形で反映させた。基幹バスとの連携を強化することによる運行システムやサービス水準の改善等を図り、需要(利用)を開発してバス交通を活性化することを目標とした。</p>	<p>B 事業は概ね適切に実施された。・地域一体となった取組みを通じて利用者促進を図っているが、対象地域における人口減少と高齢化が更に進んだことで利用者が減少している。平成28年9月末での利用者数は1日平均3.1人であるが全体に減少している。地域住民にとって重要な交通機関であり、村内公共交通の見直し、改善を図りながら、来年度以降も継続していきたい。</p>	<p>B 1日平均利用者数は、3.1人(対前年度比27.9%減)1本当たりの乗車目標は1.3人に対して0.46人となったが、対象地域の人口減少と利用者の高齢化によるものである。利用者数は減少しているが、地域住民の通院、通学、買い物等、日常生活に必要な地域内交通移動を維持し、地域を活性化させる目標は充足されており、幹線へ接続できる交通手段の確保ができた。</p>	<p>・維持可能な公共交通とするためには、地域住民の自主的・積極的な利用が不可欠であり、今後も利用者へのアンケート調査の実施等により利用促進に係る啓発等を推進していくとともに、より一層の環境整備を行う。・基幹バス路線のダイヤ改正後の利用者の動向を調査、分析し、村内公共交通の見直し、改善を実施する。</p>

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

協議会名: 秦野市地域公共交通会議

評価対象事業名: 地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)
株式会社愛鶴	<p>【湯の沢線】 ● 渋沢駅北口～湯の沢終点(4.8km) ・平日: 渋沢駅発5便、湯の沢終点発11便</p> <p>【みくるべ線】 ● 渋沢駅北口～渋沢駅北口(循環・11.6km) ・平日: 8便 ● みくるべ榎戸～渋沢駅北口(6.7km) ・平日: 1便</p> <p>【柳川・八沢線】 ● 渋沢駅北口～八沢沢ノ下(5.3km) ・平日: 渋沢駅発3便、八沢沢ノ下発4便</p>	<p>平成23年10月から実証運行を開始した上地区乗合自動車(愛称: 行け行けぼくらのかみちゃん号)は、地域住民及び運行事業者とも協議を行い、平成26年10月1日から事業者の自主運行事業として本格運行へ移行した。</p> <p>本格運行に当たっては、これまでの利用実績及び運行事業者の意向を踏まえて、持続可能な公共交通とする必要があるため、運行の効率化を図るとともに、利用者の少ない時間帯の運行便数を削減するなど、ダイヤの変更を行った。</p> <p>平成27年10月には、14人乗り車両(乗客定員13人)を1台導入するとともに、平成28年4月からは、自由降車区間の設置及び小・中学生定期乗車券の導入(実証実験)を実施した。</p>	<p>A</p> <p>平成27年10月に、14人乗り車両(乗客定員13人)を1台導入するとともに、平成28年4月からは、自由降車区間の設置及び小・中学生定期乗車券の導入(実証実験)を適切に実施するなど、持続可能な運行に努めた。</p> <p>また、引き続き、子供たちが社会体験や自然体験に、上地区乗合自動車を利用しやすいよう、学校長期休業期間における小児運賃を半額の50円とした。</p>	<p>B</p> <p>上地区乗合自動車を持続可能なものとするため、上地区公共交通協議会において、継続要件: 2.4人/便以上(人件費を運賃収入で賄う)、継続目標: 4.7人/便以上(運行前の路線バスの実績)、自立運行目標: 5.9人/便以上(運行経費を運賃収入で賄う)を定めている。(平成29年度分から継続目標を3.72人/便以上に変更(自立運行目標は削除))</p> <p>平成28年度分(平成27年10月～平成28年9月)の運行実績は3.14人/便であり、継続目標には至らなかったが継続要件を達成できた。</p> <p>なお、前回の事業評価時の事業の今後の改善点に、平成28年度は、平成27年度の運行実績である3.20人/便を超える利用者数を目指すと記載したが、3.14/便と至らなかった。</p> <p>また、小児運賃割引の結果、割引実施期間において延べ82人の子供たちの利用を得ることができた。</p> <p>車両の取得に関しては、定員超過発生率0.24%(平成26年度実績)以下を目標として定めていたが、新車両導入後、定員超過は発生していない。</p>	<p>継続目標に近づけるため、上地区公共交通協議会を中心に、引き続き改善策の検討を進め、下記の施策を実施するとともに、平成29年度は、今年度分の運行実績である3.14人/便を超える利用者数を目指す。</p> <p>○利用者数増加施策 小児運賃については、市内の民間バスに同様の制度があることから、本事業においても引き続き割引を実施する。(当該事業年度以降の取組み)</p> <p>・平成29年4月に新規停留所の設置及びダイヤ改正を予定。 ○持続可能な運行の基盤づくりに向けた取組み 運行事業者との調整のもと、本事業以外の路線においてもダイヤ改正の実施を検討するなど、乗合タクシー事業全体における収支改善を図る。さらに、収支率向上を目指して、事業協賛や地域住民からの協力金など運賃以外の収入源の確保も検討していく。</p>

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

協議会名: 中井町地域公共交通会議
 評価対象事業名: 地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)
株式会社湘南神奈交バス	運行系統名: 中井町オンデマンドバス (通称:中井ふれあいバス) 運行区域: 中井町内全域(乗降ポイント121箇所)と町外5箇所を対象としたデマンド型交通システム(区間運行型)	公共交通空白地域の解消だけでなく、町全体の魅力を高め、定住・交流を促進するまちづくりのツールとして、平成25年1月10日から実証運行している中井町オンデマンドバスについて、地域の需要を見極め、より必要とする利用者のための運行体制の見直し・改善(運行エリアや乗降ポイント、予約方法等)を重ね、持続可能な地域公共交通システムとなるよう見直しを行っていく計画となっている。	A 乗降ポイントの設置や運行時間帯の拡充を行った平成27年3月の運行内容の見直しの効果を見極めつつ、お試し回数券の配布による未利用者への利用喚起を行うとともに、未利用者などへ公共交通の利用に関する意識調査アンケートを実施するなど、利用者の拡大とニーズに基づいた事業の実施体制の構築を図っており、計画通り事業は適切に実施された。	B 平成28年度(平成28年9月末現在)の利用者数は、40.5人/日と、横ばい状況であるが、事業は着実に定着してきており、当初目標とした35人/日以上を上回っている。 平成28年度(平成28年9月末現在)の登録者数は、2,760人で、平成28年度の目標とした2,800人を、わずかに下回った。	利用者は徐々に増加しているが、新規登録の利用が鈍化していることから、引き続き利用方法の周知などPR活動を継続的に行なう。また、予約数増加に伴う予約不調等の課題を改善するため、運行回数の増加や定期定路線バスへの乗継促進など、公共交通をより必要とする町民のニーズに合わせた運行体制への見直しや利用状況の検証を行いながら、近隣自治体等関連機関や連携を模索しつつ、運行計画の検討を進める。

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

協議会名: 二宮町地域公共交通活性化協議会
 評価対象事業名: 地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)
二宮神奈中ハイヤー株式会社	デマンドタクシー 富士見が丘・松根系統 山西系統	目標に掲げる乗車人数を達成すること及び乗合を促進するため、登録要件の緩和と乗合促進キャンペーンを実施した。	A 二宮町生活交通ネットワーク計画に基づいた事業実施ができた。	B 計画に記載している移動手段の確保は達成できたが、平成28年目標に掲げる乗車人数20人/日まで届かなかった。	目標に掲げる乗車人数を達成するために、利用促進が図られる方法としてキャンペーン等を実施したが、平成27年目標に掲げる乗車人数10人/日も達成できなかったため、システム等含め抜本的な見直しをする必要がある。
相模中央交通株式会社	デマンドタクシー 富士見が丘・松根系統 山西系統	目標に掲げる乗車人数を達成すること及び乗合を促進するため、登録要件の緩和と乗合促進キャンペーンを実施した。	A 二宮町生活交通ネットワーク計画に基づいた事業実施ができた。	B 計画に記載している移動手段の確保は達成できたが、平成28年目標に掲げる乗車人数20人/日まで届かなかった。	目標に掲げる乗車人数を達成するために、利用促進が図られる方法としてキャンペーン等を実施したが、平成27年目標に掲げる乗車人数10人/日も達成できなかったため、システム等含め抜本的な見直しをする必要がある。

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

協議会名:相模原市地域公共交通会議

評価対象事業名:地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の 事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点 (特記事項を含む)
山口自動車株式会社	吉野・与瀬地区乗合タクシー	目標達成に必要な利用促進事業の実施及び計画の策定に努めた。	A 計画どおり事業は適切に実施された。	A 【目標】 稼働率65%、 1便あたり利用者数1.8人、 年間利用者数2,300人 【平成28年度(H27.10.1～ H28.9.30)実績】 稼働率77.0%、 1便あたり利用者数2.2人、 年間利用者数3,327人	利用者の増加や稼働率の向上を目指し、今後も、利用促進に取り組む。

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

協議会名: 身延町地域公共交通活性化協議会
 評価対象事業名: 地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)
山交タウンコーチ(株) (株)身延タクシー (有)中富タクシー	・運行区域 身延地区 下部地区 中富地区 一部町外(市川三郷町岩間)	前回、未達成の項目を中心に目標を設定	A 計画通り、適切に実施された。	B ・乗合タクシー利用者数 目標:17000人 結果:18748人 ・乗合タクシー1台追加 目標:5台 結果:5台 ・バス路線の見直しの検討 目標:5路線 結果:6路線	・民間路線バス、町営バス等と連携し、より利用しやすい公共交通を目指す必要がある。 ・住民に運行目的、利用方法等を理解してもらため、広報等を充実させる必要がある。 ・より利用しやすく、地域にあった公共交通をめざし、整備を進めていく。

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

協議会名: 中央市地域公共交通活性化協議会

評価対象事業名: 地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の 事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点 (特記事項を含む)
<p>山交タウンコーチ株式会社 「中央市役所田富庁舎～シルクふれんどりい線」</p>	<p>「中央市役所田富庁舎～JR小井川駅～山梨大学医学部附属病院～中央市役所玉穂庁舎～JR東花輪駅～中央市役所豊富庁舎～シルクふれんどりい」間を運行</p>	<p>利用者増に向けて、利用実態を把握するためバス停ごとの乗降人数のカウントや利用者アンケートなど乗降調査を行い利用実態を把握した。 また、新たな利用者を確保するために、子ども達の長期休暇には他施設と連携した啓発事業やバス内でのポスター・写真等、各種コンクールでの入選作品の掲示などを行った。</p>	<p>A 計画とおり事業は適切に実施された。</p>	<p>B 目標値である利用者数10,000人に対して約90%の達成率となり目標を達成することができなかったが、引き続き乗降調査や効果的な啓発活動等を行い、利用状況分析とPR活動に努め利用者増に繋げていきたい。</p>	<p>今後、利用者増に向けて、市内の総合病院、大型ショッピングセンター、温泉施設等各施設に時刻表の配布を行うとともに、バス内でのポスター・写真等、各種コンクールでの入選作品の掲示なども継続して行う。 また、コミュニティバスに親しみを持ってもらうため児童等の長期休暇にあわせコミュニティバスミニツアー等を企画し、引き続き効果的な啓発活動を行う。併せて、乗降調査を継続し利用者の利用実態やニーズの把握に努めていく。</p>

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

協議会名: 笛吹市地域公共交通会議
 評価対象事業名: 地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)
事業者名:山梨第一交通(株) 運行系統名:笛吹市デマンドタクシーみさかルート	御坂町若宮地区(旧若宮公民館)～石和町駅前地区(JR石和温泉駅)	・利用者のニーズに沿った運行を検討し、本事業年度開始の平成27年10月1日から金融機関への乗り入れを開始した。 また、利用ガイドの沿線住民への周知や乗り入れ施設への設置配布・登録事務への協力等、継続的に利用者の増加を促進するための取り組みを行っている。	●計画に位置付けられた事業は適切に実施されている。 ・欠便や大きな遅延もなく、運行計画に沿った適切な事業が行われた。 ・交通空白地帯の解消のみならず、本市の交通ネットワーク拠点である石和温泉駅への接続により、JRや民営の地域間幹線系統へのアクセス向上等による広域的な移動を可能にした(交通ネットワークの改善)という点でも成果をあげている。	■1日当たり乗車人数 目標17.1人に対し16.6人 ■収支率(運賃収入/運行経費) 目標16.3%に対し13.9% 1日当たり乗車人数並びに収支率ともに、目標値を達成できなかった。 しかしながら、前年度の1日当たり乗車人数15.7人からは、伸びているため、今後も引き続き、利用実態の検証とニーズに沿った運行内容の検討を行う必要がある。	・前年度から乗車数は伸びたものの、目標は達成できなかった。 なお、利用者データからは、利用頻度の高い利用者の動向によって、今後、乗車人数・収支率への大きな影響も想定されるため、引き続き利用実態を注視し、ニーズに沿った効果的な運行となるよう必要な改善を積み重ねていくとともに、継続して利用者のすそ野拡大に繋がるような情報発信(利用者インタビューによる利用事例等の情報発信)を検討、実施していく。
事業者名:石和タクシー(株) 運行系統名:笛吹市デマンドタクシーふじみルート	石和町富士見地区(河内公民館)～石和町駅前地区(JR石和温泉駅)～石和町川中島地区(川中島公民館)	・利用者のニーズに沿った運行を検討し、本事業年度開始の平成27年10月1日から高齢化率の高い地域へのエリア拡大、高齢者の利用が想定される公共施設(温泉施設)や金融機関への乗り入れを開始した。 また、利用ガイドの沿線住民への周知や乗り入れ施設への設置配布・登録事務への協力等、継続的に利用者の増加を促進するための取り組みを行っている。	●計画に位置付けられた事業は適切に実施されている。 ・欠便や大きな遅延もなく、運行計画に沿った適切な事業が行われた。 ・交通空白地帯の解消のみならず、本市の交通ネットワーク拠点である石和温泉駅への接続により、JRや民営の地域間幹線系統へのアクセス向上等による広域的な移動を可能にした(交通ネットワークの改善)という点でも成果をあげている。	■1日当たり乗車人数 目標8.6人に対し13.8人 ■収支率(運賃収入/運行経費) 目標9.0%に対し11.2% 1日当たり乗車人数並びに収支率ともに目標値を達成した。 今後も引き続き、利用実態の検証とニーズに沿った運行内容の検討を行う必要がある。	・新たな目的地等を追加した効果もあり、前年度から大幅に乗車人数が伸び、目標を達成することができた。 しかしながら、利用者データからは、利用頻度の高い利用者の動向によって、今後、乗車人数・収支率への大きな影響も想定されるため、この結果に一喜一憂することなく、引き続き利用実態を注視し、ニーズに沿った効果的な運行となるよう必要な改善を積み重ねていくとともに、継続して利用者のすそ野拡大に繋がるような情報発信(利用者インタビューによる利用事例等の情報発信)を検討、実施していく。

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

協議会名: 富士川町地域公共交通活性化協議会
 評価対象事業名: 地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)	
(有)青柳タクシー 平林エリア(乗合バス型)	「小室～青柳町」を運行	事業は適切に実施され、利用者数は増加している。	A 計画どおり事業は適切に実施された。	A	満足度【アンケートによる】: 目標90%に対し94%であった。理由:区域内運行について、事前の予約が必要で面倒という意見が一部あったが、目標を達した。利用実績:目標80人/日に対して、88人/日であった。利用実績については、目標を達成したと言える。	乗合バス型については、ほぼ計画どおり運用され、利用者の満足度も良好である。引き続き利用実績の向上のため地域の意見を聞き取り組んで行きたい。
(有)青柳タクシー 平林エリア(デマンド型)	旧増穂町エリア(小室方面)を運行	事業は適切に実施され、利用者数は増加している。	A 利用者の状況を考慮し運行形態を設定しているので、事業は適正に実施されている。	A		エリアの広さを考えると、現在の運行本数は適切であり、時間間隔については運用でカバーしていきたい。また、地域の要望を踏まえ運行形態の見直しについて検討していく。
(有)豊栄タクシー 小室エリア(乗合バス型)	「平林～青柳町」を運行	事業は適切に実施され、利用者数は増加している。	A 計画どおり事業は適切に実施された。	A		乗合バス型については、ほぼ計画どおり運用され、利用者の満足度も良好である。引き続き利用実績の向上のため地域の意見を聞き取り組んで行きたい。
(有)豊栄タクシー 小室エリア(デマンド型)	旧増穂町エリア(平林方面)を運行	事業は適切に実施され、利用者数は増加している。	A 利用者の状況を考慮し運行形態を設定しているので、事業は適正に実施されている。	A		エリアの広さを考えると、現在の運行本数は適切であり、時間間隔については運用でカバーしていきたい。また、地域の要望を踏まえ運行形態の見直しについて検討していく。
(有)鯉沢タクシー 十谷エリア(デマンド型)	旧鯉沢町エリア(十谷方面)を運行	事業は適切に実施され、利用者数は増加している。	A 利用者の状況を考慮し運行形態を設定しているので、事業は適正に実施されている。	A		エリアの広さを考えると、現在の運行本数は適切であり、時間間隔については運用でカバーしていきたい。また、地域の要望を踏まえ運行形態の見直しについて検討していく。

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

協議会名: 甲州市地域公共交通会議

評価対象事業名: 地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)
甲州タクシー(株)	甲州市塩山地域(松里・奥野田・市街地)を運行	料金改定を行い、デマンドバスのフリーパスを廃止し、新規利用者の獲得に努めた。 また、利用啓発を兼ねて、利用者の集まる集会に出向き、利用者の意見を直接聞いて回るなどの周知活動を積極的に行った。	A 事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された。	B 【区域】 【目標】 【実績】 松里区域 5,038人/年 3,926人/年 奥野田区域 4,816人/年 4,615人/年 市街地 5,067人/年 4,627人/年 平成28年7月より利用者の多い老人福祉施設が閉館となり、利用者が減少したため、目標値に届かなかった。	老人福祉施設の閉館により利用者数が減少したため、デマンドバスを利用して、市内の代替施設を利用できるようにエリアの変更が必要である。 また、運行開始から5年が経過し、利用者から寄せられた意見の対応をし、利用者の利便性向上と新規利用者の獲得に努めていく。
塩山タクシー(株)	甲州市塩山地域(玉宮・神金・大藤)を運行	料金改定を行い、デマンドバスのフリーパスを廃止し、新規利用者の獲得に努めた。 また、利用啓発を兼ねて、利用者の集まる集会に出向き、利用者の意見を直接聞いて回るなどの周知活動を積極的に行った。 スーパーの新規開店に伴い、現在定時運行を行っている玉宮エリアの停留所を新たに追加し、利用者の利便性を確保した。	A 事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された。	B 【区域】 【目標】 【実績】 玉宮区域 5,038人/年 3,449人/年 神金大藤区域 4,685人/年 3,925人/年 平成28年7月より利用者の多い老人福祉施設が閉館となり、利用者が減少したため、目標値に届かなかった。	老人福祉施設の閉館により利用者数が減少したため、デマンドバスを利用して、市内の代替施設を利用できるようにエリアの変更が必要である。 また、運行開始から5年が経過し、利用者から寄せられた意見の対応をし、利用者の利便性向上と新規利用者の獲得に努めていく。

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

協議会名: 都留市地域公共交通活性化協議会

評価対象事業名: 地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性		⑤目標・効果達成状況		⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)
富士急山梨バス(株) 市内循環線	谷村・三吉地域	増加傾向だった利用者がほぼ横ばいとなり、利用環境を整備するため、ダイヤの調整、バス停の名称変更を検討した。	A	計画通り適切に運行された	B	年間利用者数の目標16,500人に対し、10,609人であった。	ダイヤ改正やバス停の名称変更により利用しやすい環境を整備するとともに、継続的な周知を行う。
富士急山梨ハイヤー(株) 東桂線	東桂地域	伸び悩んでいる利用者の増加を図るため、空白地帯の夏狩地区の運行及び鉄道駅への接続を検討した。(H27.10月開始)	A	計画通り適切に運行された	C	1台あたりの平均乗車人数の目標2.5人に対し、1.2人であった。	平成27年10月から空白地帯となっていた夏狩地域の運行開始を含め、利用者増加策を検討する。
富士急山梨ハイヤー(株) 盛里線	禾生・盛里地域	利用者は順調に増加しているため、盛里地域だけでなく、経由地となっている禾生地域への周知を検討した。(平成27年10月から禾生・盛里線とした)	A	計画通り適切に運行された	B	1台あたりの平均乗車人数の目標2.5人に対し、1.6人であった。	全体の利用者は増加しているが、利用者が少ない便のダイヤ改正を検討する。

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

協議会名: 上野原市地域公共交通活性化協議会

評価対象事業名: 地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)
有限会社 駅前タクシー	第1.1地域(柵原方面)	※平成27年2月27日の評価結果を踏まえ、計画等に反映した内容を記載	A ◆利用者数:2,021人/年 : 8.42人/日 ◆交通空白地域の解消や交通弱者を中心とする市民の移動手段の確保などが図られた。	A 【目標】 ◆利用者数/日を実証運行開始後から平成27年5月までの数値の105%に 【達成状況】 ◆利用者数/日は、全地域合計では増加しているが、目標達成に至らない系統が2系統あった。 ○第1.1(柵原) 114.4% ○第1.2(西原) 131.7% ○第2(大鶴・甲東) 88.3% ○第3(大目・巖) 109.1% ○第4(島田・秋山) 99.1% ○全地域合計 106.5%	◆交通弱者の移動手段確保等のため、今後も市の財政負担を抑制しつつ、効率的かつ持続可能な公共交通の確保・維持に取り組んでいく必要があるが、利用登録者数は微増の状況となっている。そのため、利用者数の劇的な増加は、難しくなっている。よって、目標値の設定にあたっては、平成29年度の利用動向も注視しながら、増加率を抑えた設定としたい。【29年度は28年度と同じく105%に設定】 ◆現在進行中の上野原駅周辺の整備に伴い、平成30年4月に市内の路線バスの発着の起終点が上野原駅北口から南口に移転する予定となっている。その移転時に、市内の路線バスとデマンドタクシーの再々編が可能となるよう、運行事業者と協議会事務局の定例会をはじめ、その他の関係者とも協議を行う中で具体案を検討していきたい。 ◆市の他の関係計画とも調整を図りながら、地域公共交通網形成計画を作成していきたい。
富士急山梨バス 株式会社	第1.2地域(西原方面)	◆利用実態のデータ蓄積・分析を継続実施 ◆運行事業者が運行地域を移った際の利用者の混乱回避、運行委託事業者の安定運行の確保などのため、複数年(2年間)契約を指名競争入札により締結	A ◆利用者数:3,783人/年 :15.76人/日 ◆交通空白地域の解消や交通弱者を中心とする市民の移動手段の確保などが図られた。	A	
上野原タクシー 株式会社	第2地域(大鶴・甲東方面)	◆利便性向上のため、停留所6箇所を追加設置(中心市街地 16箇所→18箇所、各地域 314箇所→318箇所)	A ◆利用者数:3,412人/年 :14.22人/日 ◆交通空白地域の解消や交通弱者を中心とする市民の移動手段の確保などが図られた。	C 【分析】 ◆利用者数/日は、H25年度:64.12人、H26年度:64.69人、H27年度:67.33人と着実に増加してきたが、平成28年度66.49人と微減。 ◆事業規模が小さいため、毎日のように頻繁に利用される方の有無・増減による利用者数への影響が非常に大きい。 ◆利用者の約9割が60歳以上で、利用停留所から推察すると「通院+買い物」で利用する率が高い。	
有限会社 四方津交通	第3地域(大目・巖方面)	◆運行事業者と協議会事務局の月1回の定例会議を継続実施	A ◆利用者数:3,433人/年 :14.30人/日 ◆交通空白地域の解消や交通弱者を中心とする市民の移動手段の確保などが図られた。	A	
有限会社 島田交通	第4地域(島田・秋山方面)		A ◆利用者数:3,308人/年 :13.78人/日 ◆交通空白地域の解消や交通弱者を中心とする市民の移動手段の確保などが図られた。	C	

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

協議会名: 南アルプス市地域公共交通活性化協議会
 評価対象事業名: 地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)
山梨交通(株) ・南回り路線 ・北回り路線 ・芦安路線	・南回り路線 (南アルプス市役所～十五所～巨摩共立病院～やまなみの湯～甲西支所～南アルプス市役所) ・北回り路線 (南アルプス消防署～白根高校～八田支所～白根支所～徳洲会病院～南アルプス市消防署) ・芦安路線 (芦安～御勅使～白根支所～徳洲会病院～JA在家塚支所)	平成27年10月からの運行であり、今回がはじめての事業評価のため、事業評価結果の反映は、次年度の計画から行う。	A 計画とおり事業は適切に実施された。	A 目標値である年間利用者数20,134人で、目標人数の10,000人を上回った。また、住居地域及び交通不便地域と、病院、商業施設、学校、市役所等の施設を結ぶ地域の足としての交通手段として確立できた。	現在のバス路線は、一つの路線で住居地域と主だった施設を回ることができるが、乗換えをする場合には、待ち時間が多くなり、また、1路線の運行時間が長く、改善する必要がある。

平成28年度 地域公共交通調査事業(計画策定事業)一覧

都県	市町村	協議会名
茨城県	筑西市	筑西市地域公共交通会議
	潮来市	潮来市地域公共交通活性化協議会
	龍ヶ崎市	龍ヶ崎市
	鹿嶋市	鹿嶋市
	城里町	城里町地域公共交通会議
栃木県	日光市	日光市
埼玉県	ときがわ町	ときがわ町
	寄居町	寄居町地域公共交通活性化協議会
千葉県	長南町	長南町
	柏市	柏市地域公共交通活性化協議会

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(計画策定に係る事業)

協議会名:筑西市地域公共交通会議

評価対象事業名:地域公共交通調査事業(計画策定事業)

①事業の結果概要	②事業実施の適切性	③生活交通確保維持改善計画又は地域公共交通網形成計画等の計画策定に向けた方針
<p>既存の統計データやデマンドタクシー運行によって蓄積したデータの分析のほか、市民アンケート等により、市民の詳細な移動特性や公共交通に対する意向を把握し、地域公共交通の課題を整理し、既存公共交通の見直し、新たな交通サービスの検討など、施策の具体化のための推進方策などを設定するための調査事業を実施した。</p> <p>調査結果を踏まえ、既存公共交通(鉄道、デマンドタクシー、タクシー)の改善に加え、バス路線の導入を進め、地域公共交通全体で幹線系交通及び支線系交通の充実と相互連携、適切な役割分担を図るなど施策の推進方策等を設定し、本年度末を目途に今後の本市における公共交通施策の指針となる「筑西市地域公共交通網形成計画」を策定する。</p>	<p>A 事業は計画に位置づけられたとおり、適切に実施されている。</p>	<p>次年度以降、当該計画に位置付けた施策の実施に向けて、筑西市地域公共交通会議において具体的な協議を行い、生活交通ネットワーク計画等を策定し、地域公共交通確保維持事業(地域間幹線系統確保維持費国庫補助金又は地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金)等の活用を見据える。</p>

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(計画策定に係る事業)

協議会名:潮来市地域公共交通活性化協議会

評価対象事業名:地域公共交通調査事業(計画策定事業)

①事業の結果概要	②事業実施の適切性	③生活交通確保維持改善計画又は地域公共交通網形成計画等の計画策定に向けた方針
<p>①公共交通空白地域が広く存在することなどにより、高齢者や子どもをはじめとする自動車を運転できない市民等の移動が大きく制約されている。</p> <p>②高速バスターミナルや鉄道駅へ公共交通にてアクセスできる地域は限られており、市外への移動、市外からの来訪に対しても公共交通の利便性が低い。</p> <p>③マイカーによる出発地と目的地だけの移動がほとんどで、市内拠点への人の集中が無く拠点性の低下や市民のふれあい機会が減少している。</p> <p>④水郷潮来バスターミナルのハブ化が必要であるが、路線バスが1路線しか結節していない。</p> <p>⑤新たな公共交通導入に際しては、既存の無料バスも含め、運行調整等が必要である。</p>	<p style="text-align: center;">A</p> <p>事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された</p>	<p>○補助対象事業名:平成28年度地域公共交通確保維持改善事業費補助金(地域公共交通調査事業(計画策定事業))</p> <p>○事業内容:潮来市地域公共交通網形成計画策定</p> <p>○実施時期:完了予定日 平成29年3月31日</p> <p>○計画策定の方針:</p> <p>・潮来市内の交通ターミナル等と市内主要拠点等を結ぶ市の骨格となる持続可能な幹線交通ネットワークを構築する。・各種まちづくり計画等に示されている「水郷いたこバスターミナルのハブ化」の推進に向け、近隣市と連携のうえ広域的に利便性の高い公共交通ネットワークの形成を図る。・公共交通空白地域を解消し、公共交通による移動を完結させるため、フィーダー交通をサービスする。・幹線交通とフィーダー交通の適正な乗継を実現するため、乗継を促す運賃体系を構築するとともに、現在運行されている各種送迎バスとの運行調整を行い、公共交通全体の効率化を図る。</p>

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(計画策定に係る事業)

協議会名: 龍ヶ崎市地域公共交通協議会

評価対象事業名: 地域公共交通調査事業(計画策定事業)

①事業の結果概要	②事業実施の適切性	③生活交通確保維持改善計画又は地域公共交通網形成計画等の計画策定に向けた方針
<p>○事業内容 1. 地域の概況, 上位関連計画 2. アンケート調査 3. 地域公共交通網の問題・課題の整理 4. 地域公共交通網形成計画の方針 5. 地域公共交通網形成計画のまとめ 6. 協議会開催</p> <p>○結果概要 アンケート調査の結果, 地域公共交通について「運行本数の増加」, 「乗り継ぎを良く」, 「移動時間の短縮」等を望む声が多かった。この調査結果と, 地域社会の状況, 地域公共交通の現状から, 地域公共交通の課題を整理し, 方向性や基本方針, 実施していく事業を計画にまとめた。</p>	<p style="text-align: center;">A</p> <p>事業が計画に位置づけられたとおり, 適切に実施された</p>	<p>○補助対象事業名 龍ヶ崎市地域公共交通網形成計画策定事業</p> <p>○事業内容 1. 地域の概況, 上位関連計画 2. アンケート調査 3. 地域公共交通網の問題・課題の整理 4. 地域公共交通網形成計画の方針 5. 地域公共交通網形成計画のまとめ 6. 協議会開催</p> <p>○実施時期 平成28年度</p> <p>○計画策定に向けた方針 駅や公共施設, 各地域の生活拠点を有機的に結ぶことで, 広域な通勤・通学等の可能性を広げるとともに, 買い物や通院等, 日常生活における移動が円滑となる地域公共交通サービスの提供によって, 多様な世代に選ばれるまちを目指す。</p>

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(計画策定に係る事業)

協議会名:鹿嶋市地域公共交通活性化協議会

評価対象事業名:地域公共交通調査事業(計画策定事業)

①事業の結果概要	②事業実施の適切性	③生活交通確保維持改善計画又は地域公共交通網形成計画等の計画策定に向けた方針
<p>事業内容:①市民アンケート,利用者アンケート等の現況調査 ②課題の整理 ③基本方針・目標の設定 ④施策・方策の検討 ⑤網形成計画のとりまとめ ⑥協議会の開催</p> <p>調査結果からの課題 ①東京都や水戸市等への広域公共交通機関の役割分担と利便性強化 ②近隣市との公共交通での連絡強化 ③地域公共交通の役割分担と公共交通空白地での移動性確保 ④駅等の交通結節点と生活施設集積地区の連絡 ⑤公共交通のサービス水準向上ニーズへの対応 ⑥中高生などの学生,遠距離通学を要する小学生や75歳以上の高齢者(交通弱者)を中心とした公共交通サービス ⑦自動車から公共交通への転換意向の喚起 ⑧市の公共交通への財政的負担の適正化</p>	<p style="text-align: center;">A</p> <p>鹿嶋市地域公共交通網形成計画の策定のため,事業が適切に実施された。</p>	<p>補助対象事業名:鹿嶋市地域公共交通網形成計画策定調査業務 事業内容:①市民アンケート,利用者アンケート等の現況調査 ②課題の整理 ③基本方針・目標の設定 ④施策・方策の検討 ⑤網形成計画のとりまとめ ⑥協議会の開催 実施時期:①平成28年9月実施 ②平成28年9月～11月 ③平成28年11月～12月 ④平成28年11月～12月 ⑤平成28年12月～平成29年2月 ⑥平成28年8月3日,平成28年11月29日,平成29年1月11日,平成29年2月20日 鹿嶋市における公共交通の役割:市民の移動に資する社会基盤 目指すべき姿:移動特性に合わせた公共交通ネットワーク</p>

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(計画策定に係る事業)

協議会名: 城里町地域公共交通会議

評価対象事業名: 地域公共交通調査事業(計画策定事業)

①事業の結果概要	②事業実施の適切性	③生活交通確保維持改善計画又は地域公共交通網形成計画等の計画策定に向けた方針
<p>地域公共交通の現状を把握するため、既存資料による分析をお行った。地域住民の移動実態を調査するため住民アンケート調査や交通事業者や施設管理者等にヒアリング調査を実施した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アンケート集計概要 全体的に公共交通の利用者は少なく、課題として運行本数、最終便の時間帯、目的地までの時間等が挙げられサービス面の充実が課題となる。 ・事業者ヒアリング概要 公共交通機関の認知度の向上や乗車券などの販売促進が挙げられ、サービスの改善が課題となった。 ・グループインタビュー概要 デマンドタクシーの利用が多く、病院やスーパーへの利用が多い。町外への運行の要望があるが、デマンドシステムについては町外運行はしないため。 	<p style="text-align: center;">A</p> <p>事業が計画に位置付けられたとおり、適切に実施された。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・住民が活動拠点へ移動するために必要な公共交通サービスを展開し、要内の交通軸における移動手段を確保し町内拠点への外出機会を創出する。 ・健全で持続可能な公共交通事業を展開するため、モビリティマネジメントを実施し、各交通事業の収支を改善することで交通事業への財政支出を減らす。 ・町外への移動需要に対応した公共交通サービスを展開するため、町外への通勤・通学・買い物・通院の足の確保や町外からの来訪者の足を確保する。

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(計画策定に係る事業)

協議会名:日光市公共交通活性化協議会

評価対象事業名:地域公共交通調査事業(計画策定事業)

①事業の結果概要	②事業実施の適切性	③生活交通確保維持改善計画又は地域公共交通網形成計画等の計画策定に向けた方針
<p>【事業内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・社会情勢関連の整理 ・まちづくりに関わる現状の整理 ・公共交通の運行・利用状況・収益状況等の整理 ・上位・関連計画の整理 ・市民アンケート調査 ・公共交通の利用者調査 ・地域住民ヒアリング調査 ・事業者等ヒアリング調査 ・現状・問題点の整理 ・移動特性・住民ニーズの整理 ・地域の公共交通を取り巻く課題の整理 ・法定協議会の開催 ・地域協議会の開催 ・事業者・団体ヒアリング <p>【結果概要】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・社会情勢やまちづくりの方向性をふまえた問題点、課題等の抽出及び整理を実施。 ・現状把握のため、市民へのアンケートや住民ヒアリング等を実施し、地域による移動特性や住民ニーズを整理。 ・ネットワークの構築に向けた公共交通網のあり方について基本方針を検討。 	<p style="text-align: center;">A</p> <p>事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された。</p>	<p>【事業名】 日光市地域公共交通網形成計画策定調査業務</p> <p>【実施時期】 平成29年3月31日完了予定 ※H28・29年度の2カ年</p> <p>【策定方針】 市の面積、中心市街地と各拠点とのネットワーク、限界集落や山間部対策など、様々な課題を踏まえて、立地適正化計画やまちづくり及び観光産業分野等との連携を図り、より充実した公共交通網の整備実現の向けて計画を策定していく。</p>

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(計画策定に係る事業)

協議会名: ときがわ町地域公共交通活性化協議会

評価対象事業名: 計画策定事業

①事業の結果概要	②事業実施の適切性	③生活交通確保維持改善計画又は地域公共交通網形成計画等の計画策定に向けた方針
<p>①OD調査 H29.9.24～H29.10.2 9日間実施 調査票回収4027人</p> <p>②アンケート調査 H28.11.11～H29.12.2 アンケート回収数 2072人</p> <p>アンケート調査結果では、ハブ西側地域の高齢者世帯割合が高く、現在、将来(5年後)の自分にとってバスが必要と考えている人が多いにもかかわらず、OD調査の結果では、路線バス、デマンドバスバス停の56%が調査期間中の利用者0人であり、地域住民の利用需要と公共交通に乖離があるといえる。</p> <p>バスの利便性が高いハブバス停周辺地域で定期的な利用者が少なく、また町内における住民の移動目的先もハブバス停ではないことから、ハブ位置の変更も含めて再編が必要なが見えてきた。</p>	<p style="text-align: center;">A</p> <p>事業が計画に位置付けられたとおり、適切に実施された</p>	<p>得られた基礎調査成果をもとに見えてきた課題の経血に向け、平成30年3月を目標に地域公共交通網形成計画を策定する。</p>

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(計画策定に係る事業)

協議会名:寄居町地域公共交通活性化協議会

評価対象事業名:地域公共交通調査事業(計画策定事業)

①事業の結果概要	②事業実施の適切性		③生活交通確保維持改善計画又は地域公共交通網形成計画等の計画策定に向けた方針
寄居町地域公共交通網形成計画	A	事業が計画に位置付けられたとおり、適切に実施された	<p>平成28年12月16日第4回協議会を開催し、内容につき委員から承認を頂く。</p> <p>平成29年1月～2月にパブコメを実施し、頂いた良いご意見を計画へ反映させる。</p> <p>2月下旬の第5回協議会において網形成計画の承認を頂く予定。</p>

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(計画策定に係る事業)

協議会名:長南町地域公共交通活性化協議会

評価対象事業名:地域公共交通調査事業(計画策定事業)

①事業の結果概要	②事業実施の適切性	③生活交通確保維持改善計画又は地域公共交通網形成計画等の計画策定に向けた方針
<p>【主な事業内容】 (1)長南町における公共交通の課題整理 (2)長南町における望ましい公共交通ネットワークの方向性 (3)計画の推進体制 (4)施策の展開 (5)長南町地域公共交通網形成計画の作成 (6)協議会の開催</p> <p>【結果概要】 ・課題を整理するにあたりニーズ把握をするために、町民に対するアンケート調査(900世帯対象)、巡回バス、デマンド乗合タクシーの実態調査を行った。また町外の方がどのような交通手段で町内を訪れるか把握するため、町外の人を対象に笠森霊園でも調査票を配布した。 ・買い物については、自動車(送迎含む)での移動が84%、通院は自動車(送迎含む)での移動が83%となっており日常生活での移動は自家用車に依存している結果になった。 ・高齢化率が高い本町においては、将来的に自家用車での移動(自力で運転)が困難になってくることが予想され潜在的な公共交通需要が高いことがわかるため、このような要因を考慮した公共交通ネットワークの方向性で施策を展開する。 ・利用者減少に伴う巡回バス見直し(廃止含む)については、上記調査結果を踏まえ、すぐに廃止するのではなく運行経路、運行ダイヤなど見直す形で運行する。 ・公共交通ネットワークの方向性について通学、通勤者、高齢者の買い物、通院等の外出行動、観光入込客の動向を考慮した上で盛り込んだ。 ・路線バス休止に伴う代替え手段について2市町(茂原市・長南町)で、コミュバス同士の接続を視野に検討している。 ・協議を行うため長南町地域公共交通活性化協議会を5回開催する予定。(4回開催済み)</p>	<p>A</p> <p>事業が計画どおり適切に実施された。</p>	<p>・地域公共交通網形成計画等の計画策定に向けた方針 【広域軸:高速バス】長南駐車場(町内の高速バス停留所)での路線バスと巡回バスの運行時刻調整を図る。 【幹線軸:路線バス】巡回バスとの競合区間の調整、路線バス効率化を図る。 【支線軸:巡回バス】巡回バスについては、本数及び運行経路等、運行サービスの見直しを図る。 【補完軸:デマンド乗合タクシー】運行時間帯等、サービスの一部見直しを図る。 【交通結節点】休憩機能、情報提供機能の整備を図る。</p> <p>・長南町公共交通網形成計画で位置づけた事業については、来年度以降、関係者と連携(国の補助事業を活用)しながら「地域公共交通再編実施計画」の策定を実施する。</p> <p>・デマンド乗合タクシーにおけるサービスの一部見直しについては、調査事業の結果により通院が目的の大半を占めており住民の外出行動に適した運行形態等を、平成30年度計画、生活交通確保維持改善計画(地域内フィーダー)に盛り込み反映する予定。</p> <p>・見直し後の巡回バスの運行については、網形成計画、再編実施計画を踏まえ、平成31年度計画、生活交通確保維持改善計画(地域内フィーダー)のなかに盛り込む予定。</p>

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(計画策定に係る事業)

協議会名: 柏市地域公共交通活性化協議会

評価対象事業名: 地域公共交通調査事業(計画策定事業)

①事業の結果概要	②事業実施の適切性	③生活交通確保維持改善計画又は地域公共交通網形成計画等の計画策定に向けた方針
<p>【事業内容】</p> <p>①公共交通等に関する現状把握</p> <ul style="list-style-type: none"> ・都市概況及びまちづくり方向の把握, 整理 ・公共交通の実態確認 <p>②移動実態とニーズの把握</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市民, 来訪者, 利用者アンケート調査 ・バスICデータ調査 <p>③交通課題の整理</p> <p>【結果概要】</p> <p>上記実施内容に係る調査結果を踏まえ, 地域公共交通の形成に向けての検討の方向性(案)をまとめた。</p>	<p style="text-align: center;">A</p> <p>当初見込んでいた紙アンケートのみならず, より効率的なWEBアンケート実施など事業を計画どおり実施した。</p> <p>なお, 検討の方向性(案)については平成29年2月に実施予定の協議会に諮ったうえで確定する見込みです。</p>	<p>【補助対象事業名】</p> <p>地域公共交通調査事業</p> <p>【事業内容】</p> <p>柏市地域公共交通網形成計画策定各種検討</p> <ul style="list-style-type: none"> ・基本方針及びネットワーク検討 ・施策メニュー検討 ・目標設定 <p>【実施時期】</p> <p>平成29年度末までに実施</p> <p>【方針】</p> <p>柏市地域公共交通網形成計画は平成28年度及び29年度の2か年で策定を進めることとしている。今年度の調査結果を受け, 柏市が並行して検討を進めている立地適正化計画との整合を図りながら, 具体の施策を位置付けた上で計画を取り纏めていくこととする。</p>

平成28年度 地域公共交通再編推進事業(再編計画策定事業)一覧

都県	市町村	協議会名
茨城県	稲敷市	稲敷市地域公共交通会議
	行方市	行方市地域公共交通協議会
	水戸市	水戸市都市交通戦略会議
栃木県	宇都宮市	宇都宮市
千葉県	八街市	八街市地域公共交通協議会

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(計画策定に係る事業)

協議会名: 稲敷市地域公共交通会議

評価対象事業名: 地域公共交通再編推進事業(再編計画策定事業)

①事業の結果概要	②事業実施の適切性		③生活交通確保維持改善計画又は地域公共交通網形成計画等の計画策定に向けた方針
<p>【事業内容】○バス利用者OD調査 ○バス利用者分析 ○再編実施計画の方針策定 ○公共交通会議の開催</p> <p>【結果概要】バス利用者OD調査を実施した。今後、過去の乗車データや小中高の通学状況を合わせて、利用者分析を行い、交通会議において交通ネットワークの再編について協議を行う。</p>	B	<p>当初、平成28年度のみで再編実施計画をまとめる予定であったが、バス利用者の行動パターンやニーズ把握の部分で、情報が不足していることから、今年度は情報収集と分析を行い、平成28年度と平成29年度の2年間で策定することとした。</p>	<p>持続的な公共交通システムの構築に向け、高齢者の通院・買い物と児童生徒の通学に合わせた体系を目指す。生活圏や通学圏を意識し、地域間幹線と枝線の接続を考慮した計画を策定する。</p>

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(計画策定に係る事業)

協議会名:行方市地域公共交通協議会

評価対象事業名:地域公共交通再編推進事業(再編計画策定事業)

①事業の結果概要	②事業実施の適切性		③生活交通確保維持改善計画又は地域公共交通網形成計画等の計画策定に向けた方針
行方市地域公共交通再編実施計画策定に関し、協議会を現在までに5回開催している。	A	事業スケジュールどおり適切に実施されている。	○補助対象事業名:平成28年度地域公共交通確保維持改善事業費補助金(地域公共交通再編推進事業(再編計画策定事業)) ○事業内容:行方市地域公共交通再編実施計画策定 ○実施時期:完了予定日 平成29年3月31日 ○計画策定方針:まちづくりと連携し、市民だけではなく、来訪者が利用でき、市内拠点にもアクセスできる、持続可能な公共交通ネットワークの形成

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(計画策定に係る事業)

協議会名:水戸市都市交通戦略会議

評価対象事業名:地域公共交通再編推進事業(再編計画策定事業)

①事業の結果概要	②事業実施の適切性	③生活交通確保維持改善計画又は地域公共交通網形成計画等の計画策定に向けた方針
<p>【事業内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・重点施策の具体的な実施内容及び事業展開の検討 ・立地適正化計画等との連携施策の検討 ・施策具体化に必要な調査の検討・実施 ・重点施策・事業推進のための支援等の検討 ・重点施策(再編事業)の実施効果の検討 ・地域公共交通再編実施計画案の作成 ・報告書の作成 ・協議会開催 <p>【結果概要】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・バス路線について、市内を運行しているすべての系統を対象にデータ分析を行い、方面別に12グループに区分し、グループごとに再編の方向性を検討した。その結果やバス事業者との協議内容を踏まえ、第1次再編(案)を検討した。 ・現在は、第1次再編(案)に関係する系統について、乗降調査データから、利用状況等の詳細な分析を行っているところであり、その分析結果を踏まえながら、第1次再編(案)の具体化を進めているところである。 ・バス事業者協議や水戸市都市交通戦略会議を開催し、意見交換を行いながら、第1次再編(案)について合意形成を図っていく。 	<p style="text-align: center;">A 事業は適切に実施されている。</p>	<p style="text-align: center;">第1次再編(案)の内容を具体化するとともに、再編を推進するための施策や事業効果を検討し、使いやすくなりやすい公共交通体系の実現に向け、地域公共交通再編実施計画を策定する。</p>

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(計画策定に係る事業)

協議会名:芳賀・宇都宮東部地域公共交通活性化協議会(実施主体:栃木県宇都宮市・芳賀町)

評価対象事業名:地域公共交通再編推進事業(再編計画策定事業)

①事業の結果概要	②事業実施の適切性	③生活交通確保維持改善計画又は地域公共交通網形成計画等の計画策定に向けた方針
<p>・バス事業者とのヒアリングを実施し、路線バス事業の現状を把握するとともに、過年度に実施したPT調査や、バスOD調査の結果などを活用しながら、再編後のバスネットワークやサービス水準を検討し、需要・収支の予測を行った。</p> <p>・次年度以降のバス事業者との協議・調整のベース(たたき台)となる再編案(行政案)を作成した。</p>	<p>事業が計画に位置づけられたとおりに実施されていない点があった</p> <p>B</p> <p>【計画どおりに実施されていない内容】 ⇒再編案に対する市民の意向を把握する「選好意識調査」について、PTやバスODの調査結果の分析やバス事業者との協議・調整を優先することとし、実施を見送った。</p>	<p>・引き続き、JR宇都宮駅東側のバス路線再編について、バス事業者と協議・調整を進め、平成30年度以降に「地域公共交通再編実施計画」を策定する。</p>

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(計画策定に係る事業)

協議会名:八街市地域公共交通協議会

評価対象事業名:地域公共交通再編推進事業(再編計画策定事業)

①事業の結果概要	②事業実施の適切性	③生活交通確保維持改善計画又は地域公共交通網形成計画等の計画策定に向けた方針
<p>平成28年3月に策定した「八街市地域公共交通網形成計画」を受けた実施計画案の作成に向けて、下記の業務を実施した。</p> <p>【業務内容】</p> <p>(1)市コミュニティバス運行ルート・ダイヤ再編調査業務</p> <p>①JR、民間路線バスとの乗り継ぎ調査</p> <p>②運行ルート道路状況調査</p> <p>③運行ルート・ダイヤの作成</p> <p>(2)JR八街駅利用状況調査業務</p> <p>①JR八街駅南口・北口バスターミナル利用状況調査</p> <p>②JR八街駅南口・北口一般車両利用状況調査</p> <p>(3)グループタクシー事業調査業務</p> <p>①利用者推計調査</p> <p>②利用者推計調査結果をもとにした運行経費、公的負担額のシミュレーション調査</p> <p>③グループタクシー導入計画策定部会の参加、支援</p> <p>④グループタクシー導入計画案、導入計画におけるロードマップ、役割分担毎の作業分解図の作成</p> <p>(4)地域公共交通再編実施計画策定業務</p> <p>①地域公共交通再編実施計画のとりまとめ</p> <p>②計画書のとりまとめ、成果品印刷</p> <p>(5)八街市地域公共交通協議会及び住民説明会の開催</p> <p>①協議会(4回程度)を開催する際の運営支援、書面開催をする際はその支援</p> <p>②パブリックコメント支援</p> <p>③住民説明会(1回程度)を開催する際の支援、参加、議事録作成</p> <p>(6)その他</p> <p>①公共交通不便地域の基礎資料の作成</p> <p>【結果概要】</p> <p>・業務(1)市コミュニティバスの運行ルート・ダイヤ再編調査業務について、①及び②を実施し、③市コミュニティバスの運行ルート・ダイヤの作成のための基礎資料とした。業務(2)JR利用状況調査業務について、①、②により、八街駅における人の流れを調査した。また、八街駅南口にコミュニティバスのターミナル機能の移設のためのバスの配置案を作成した。業務(3)グループタクシー事業調査業務について、郵送によるアンケート調査を実施し、利用意向及び公的負担額のシミュレーションを実施した。以上の調査業務により、「八街市地域公共交通再編実施計画(素案)」を作成した。</p> <p>・上記事業を協議するため、八街市地域公共交通協議会を3回開催し、他に書面開催を1回開催した。</p>	<p>A</p> <p>業務が計画どおり適切に実施された。</p> <p>【未実施の事項の今後の予定】</p> <p>2月に計画(案)についてパブリックコメント及び住民説明会を実施し、3月に5回目の協議会を開催し、計画の策定を見込んでいる。</p>	<p>平成29年10月を目途に市内循環バスのターミナルを市の中心核であるJR八街駅に移設し、民間路線バスとターミナルを共有することにより、公共交通機関同士の乗り継ぎ強化、また、利便性の向上を図るとともに、市の中心部に市民を集め、まちの賑わい創出に繋げる。</p> <p>ターミナル機能の移設に併せ、再編実施計画に沿って、市内循環バスの運行ルートを再編し、幹線を走る民間路線バスと支線を走る市内循環バスの役割分担を明確化させる。市内を4つの運行エリア(東・西・南・北)に区分し、車両5台による運行から4台による運行に変更する。これにより、現在の複雑な路線から、市民にとってわかりやすい路線に再編するとともに公共交通機関同士の乗り継ぎに配慮した運行ダイヤを設定する。</p> <p>地域間または、地域内の幹線系統の移動を支える民間路線バス会社の役割は重大であるため、事業者と調整をしながら、路線及びサービスの確保、維持、充実を図っていく。</p> <p>高齢者等の移動手段を確保するため、地域の住民がグループでタクシーを利用する際に支払う運賃の一部を助成するグループタクシー(相乗りタクシー)制度の導入する。地域の住民が声を掛け合い、共同でタクシーを利用することを通して、地域のコミュニティ形成を目指す。</p>

平成28年度 地域公共交通調査事業(計画推進事業)一覽

都県	市町村	協議会名
茨城県	常陸太田市	常陸太田市地域公共交通活性化協議会
	水戸市	水戸市都市交通戦略会議
	下妻市	下妻市地域公共交通活性化協議会
	神栖市	神栖市地域公共交通活性化協議会
埼玉県	春日部市	春日部市地域公共交通活性化協議会
	鳩山町	鳩山町地域公共交通会議
神奈川県	真鶴町	真鶴町地域公共交通会議

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(計画推進に係る事業)

協議会名: 常陸太田市地域公共交通活性化協議会

評価対象事業名: 地域公共交通調査事業(計画推進事業)

①事業の結果概要	②事業実施の適切性	③事業の今後の改善点 (特記事項含む)
<p>【公共交通マップ・総合時刻表の作成・配布】 平成28年10月の第1次再編に合わせて、地区ごとの公共交通マップを作成(23,700部)し、市内全戸に配布するとともに、公共交通乗継拠点(道の駅ひたちおおた・常陸太田駅)の他、各施設に設置した。</p>	<p>A 事業が計画に位置付けられたとおり、適切に実施された。</p>	<p>今後も引き続き、更なる利用促進につながるよう、活性化協議会での議論も踏まえながら、内容の充実を図っていく。</p>
<p>【バス車両ラッピング】 「路線バス市街地循環線」等2台にラッピングを施し、平成28年7月25日から運行を開始した。</p>	<p>A 事業が計画に位置付けられたとおり、適切に実施された。</p>	<p>今後も引き続き、更なる利用促進につながるよう、活性化協議会での議論も踏まえながら、内容の充実を図っていく。</p>
<p>【イベント等における地域公共交通の利用方法の説明会の開催】 「地域公共交通の利用方法等についての地元説明会」 第1次再編後の公共交通の利用方法等について、地元説明会等を実施(38回)した。 「乗り方教室の開催」 75歳以上の市民を主対象に、乗り方教室等を実施(35回)した。</p>	<p>A 事業が計画に位置付けられたとおり、適切に実施された。</p>	<p>今後も引き続き実施するとともに、更なる利用促進につながるよう、活性化協議会での議論も踏まえながら、内容の充実を図っていく。</p>
<p>【高齢者に対する自家用車から公共交通への行動変容を促すモビリティマネジメントの実施】 第1次再編後のバスICカードによる高齢者個人の乗降データを取りまとめ、その結果に基づき、利用促進のためのフィードバック資料(チラシ)を作成・送付する予定。</p>	<p>A 事業が計画に位置付けられたとおり、適切に実施される見込み。</p>	<p>次年度以降も継続して、利用促進のためのチラシ等を作成・配布することにより、高齢者の自家用車から公共交通への変容を支援していく。</p>
<p>【効果検証のためのフォローアップ調査費】 第1次再編後から、1ヶ月単位でバス乗降データの分析・評価を実施。今後も、引き続き行うとともに、平成29年1月下旬に利用者ヒアリングを実施予定。</p>	<p>A 事業が計画に位置付けられたとおり、適切に実施される見込み。</p>	<p>次年度以降も継続して、バス乗降データの分析・検証を進めるとともに、公共交通結節点等において、利用者ヒアリング調査等を実施する。</p>
<p>【協議会開催等の事務費】 補助金交付決定後、協議会2回(平成28年6月、8月)開催。今後は、平成29年2月、3月に開催予定。 その他会議(ドア・ツー・ドア事業)に2回出席。今後は、平成29年1月下旬以降に複数回開催等予定。</p>	<p>A 事業が計画に位置付けられたとおり、適切に実施される見込み。</p>	<p>次年度以降も計画的に開催する。</p>

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(計画推進に係る事業)

協議会名:水戸市都市交通戦略会議

評価対象事業名:地域公共交通調査事業(計画推進事業)

①事業の結果概要	②事業実施の適切性	③事業の今後の改善点 (特記事項含む)
<p>【公共交通マップの作成】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市民だけでなく本市を初めて訪れる観光客にも分かりやすい公共交通マップを作成する。 ・10月に開催した専門部会(利用促進部会)の意見を踏まえながら、現在は、マップの作成作業を行っている。 <p>【路線バス体験学習事業(小学生を対象としたモビリティ・マネジメント)】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市内の小学校に意向調査を行い、実施希望のあった4校で、実際に路線バスを使用し、乗車マナーやルールなどを学習してもらう体験型教室を開催した。 ・バスの乗り方を記載したクリアファイルを作成し、教材として使用した。また、公共交通の利用促進を図るため、ポスターを作成し、市内の小学校(33校)に掲出した。 	<p style="text-align: center;">A</p> <p>事業は適切に実施されている。</p>	<p>【公共交通マップの作成】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・分かりやすい公共交通マップとなるよう工夫しながら、年度内の作成に向け、作業を進める。 <p>【路線バス体験学習事業(小学生を対象としたモビリティ・マネジメント)】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・より多くの小学生に体験してもらえるよう事業を継続していくとともに、小学生だけでなく、その保護者や高齢者等を対象とした事業の実施も検討する。

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(計画推進に係る事業)

協議会名:下妻市地域公共交通活性化協議会

評価対象事業名:地域公共交通調査事業(計画推進事業)

①事業の結果概要	②事業実施の適切性		③事業の今後の改善点 (特記事項含む)
<p>新規の地域公共交通の導入に合わせて、利用促進のための説明会を実施するとともに、公共交通マップ入時刻表や公共交通ホームページの作成を進めている。</p>	A	<p>事業が計画に位置付けられたとおり、適切に実施された。</p>	<p>バスや鉄道の公共交通ネットワークを構築するため、モビリティ・マネジメントにより更なる利用促進を図る。</p>

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(計画推進に係る事業)

協議会名:神栖市地域公共交通活性化協議会

評価対象事業名:地域公共交通調査事業(計画推進事業)

①事業の結果概要	②事業実施の適切性	③事業の今後の改善点 (特記事項含む)
総合時刻表パンフレット(マップ)の作成	A	作成にあたっては適切に実施しており、3月中に印刷・配布を予定している。

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(計画推進に係る事業)

協議会名:春日部市地域公共交通活性化協議会

評価対象事業名:地域公共交通調査事業(計画推進事業)

①事業の結果概要	②事業実施の適切性	③事業の今後の改善点 (特記事項含む)
<p>春日部市内の公共交通ルートマップを作成し、全戸に配布することで、地域公共交通の周知を行い、利用を促進した。</p>	A	<p>春日部市地域公共交通網形成計画で計画された新規バスルートの運行を開始する予定であるため、運行開始時には公共交通マップを再作成し、公共交通の周知・定着を図る必要がある。このため、運行実績やアンケート調査の結果を分析し、利用しやすいダイヤの編成や利用者にわかりやすいマップの作成に努める。</p>

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(計画推進に係る事業)

協議会名: 鳩山町地域公共交通会議

評価対象事業名: 地域公共交通調査事業(計画推進事業)

①事業の結果概要	②事業実施の適切性	③事業の今後の改善点 (特記事項含む)
<p>・町内にある東京電機大学工学部と協力して実施。事前調査(意識調査)、PT(パーソントリップ)調査、走行距離調査、モビリティ・ウィーク(スマート・ムーヴ)等を実施した。</p> <p>【その結果からわかったこと】</p> <p>・職員の自動車走行距離は一日で平均21.4km。合計すると3058.6km。</p> <p>・自動車利用を控えた職員の多くは5km圏内。</p> <p>・意識調査から、健康意識、環境意識が強いことや、自動車利用抑制意識、自動車不要意識、他手段利用意識、交通・まちづくり意識があることがわかった。</p> <p>・取組の有無を分けた要因、“健康”、“住民との関係”、“距離”がわかった。</p>	<p>A 計画どおり事業は適切に実施された。</p>	<p>・大学と連携するにあたり、実施に向けた綿密なスケジュールを立てる必要がある。</p> <p>・効果的に実施するためには、データの蓄積が重要であり、事業の実施を継続させることが必要である。</p>
<p>公共交通マップの作成</p>	<p>A 計画どおり事業は適切に実施された。 (公共交通マップの作成については、年度内に作成完了予定。現在、掲載する内容やレイアウトについて検討中。)</p>	<p>・マップを活用した取組の検討が必要である。</p> <p>・情報の更新方法等の検討が必要である。</p>

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(計画推進に係る事業)

協議会名:真鶴町地域公共交通会議

評価対象事業名:地域公共交通調査事業(計画推進事業)

①事業の結果概要	②事業実施の適切性		③事業の今後の改善点 (特記事項含む)
公共交通利用促進支援 ・公共交通利用促進活動の実施 ・コミュニティバス運行事業実施の評価調査	A	当初の予定どおり事業実施をしている。	継続的にデータ収集やアンケート調査をすることによって、より利用しやすい公共交通となることを目標とする。